

## 第6 1回研究大会のまとめと反省

(研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等)

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

III 大会前の諸準備、諸会合について  
会場校の決定、地区研、事前研、資料など

IV 大会当日の運営や内容について  
日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど

V 各研究部独自の意見や要望

○…成果 ●…改善点及び課題  
△…提案

### <国語部会>

#### I

- 「竹取物語」の魅力を楽しむために、発展教材として教科書にはない、月からの使者が到来する場面を取り上げ、古文と現代語訳を対比させながら読ませた。生徒に物語のおもしろさに気づかせる教材として、内容、文章の長さともに適切であった。生徒たちが意欲的に取り組んでいる姿が見られた。(新川)
- 班での活動や発表の仕方等、学習形態が定着しており、日常的に行われていることが想像できた。生徒は、ホワイトボードを効果的に使いながら、班での考えをまとめ、自分の考えと比較することで考えを深めていた。また、振り返りの時間を確保できていたのもよかった。(新川)
- 教師の指示が的確でテンポよく、生徒の動きがスムーズであった。前時までに学習した「昔の人のものの見方」にも触れ、これまでの学習を生かした授業になっていた。また、生徒から出た質問を受け、適宜便覧を用いて生徒の理解を深めていた。教師の言動が、生徒の言語環境によい影響を与えていると感じた。(新川)
- 2つの研究授業とも小グループでの活動を取り入れたもので、生徒が主体的に活動したり、自分の言葉で語ったりする場面が多かった。ホワイトボード、付箋の活用など、他校でも参考となる具体的な手法を見ることができて有意義だった。(富山)
- 研究授業後の部会研修では、部会全体での話合いの前に、小グループで意見交換して、その意見交換の内容を発表しあう形で進めた。多様な意見が数多く出されたが、限られた時間だったので、全体討議の時間があまりとれなかった。(富山)
- 研究発表は、アドバイザーの講演の前に短時間で行った。限られた時間の中で、複数の学校の実践事例の共通項を取りあげて総括的な発表を行った。(富山)
- 随筆「字のないはがき」を「読むこと」から「書くこと」の学習への移行を行う単元として系統的な授業づくりがなされていた。指導事項は「読むこと」「書くこと」それぞれにおいて、生徒の実態をもとに付けたい力を明確にした指導事項が取り上げられ、それを指導するにふさわしい言語活動が位置付けられていた。(高岡)
- 随筆を書くという生徒にとってあまりなじみのない文章を書く活動であったが、教師自身が書いた随筆の文例や生徒作品例を示すことによって、生徒はどのような文章を書けばよいかを理解していた。(高岡)
- 教師自身が文例を作成しながら教材研究を進める中で、言語活動を進める上での留意点や個に応じた支援等を想定することができていた。段階を踏んだスモールステップでの活動、モデルの提示が有効に働いていた。(高岡)**
- 話合いの目的を明確にし、友達が多様な考えを知ることができるグループ活動にすることで、学び合える集団づくりがなされていた。自分がワークシートに書いた内容を説明したり、友達からの質問に応えたりすることで、考えを深めている様子が見られた。(高岡)
- 生徒はグループでの交流を通して、自分の書きたい内容を明確にできていた。(高岡)
- 絵画の鑑賞文を書くにあたり、美術科と連携して、事前に絵画の見方や鑑賞の仕方に関する学習を行っており、教科横断的な学習として参考になる授業だった。美術科と連携して絵画鑑賞の観点を学習してから、2枚の絵からどちらかを選び、鑑賞文を書く活動を行ったことで、生徒は絵の魅力に基づいた鑑賞文を書くことができた。(砺波)
- 鑑賞文の題材となる絵を原寸大で用意し、生徒が常に見ることができるように掲示してあったことで、意欲を高めたり、詳細に鑑賞したりするのに効果的だった。(砺波)**
- 研究主題のもと、授業構想がよく練り上げられており、生徒の実態を把握し、付けたい力を明確にした授業で、教材への熱意と工夫にあふれた授業であった。(砺波)
- 授業に向けての準備が周到で、生徒が見通しをもって活動できるよう、板書やワークシートが工夫されていた。(砺波)
- 部会協議①では、授業者への質疑応答の後、6グループに分かれて討議を行った。授業についてよかった点や改善したらよい点などを書いた付箋をもとに話し合う形式は今回初めて取り入れたが、部員全員が意見を述べることができ、考えを共有することができた。(砺波)**

#### II

△最後に改めて竹取物語の魅力について全体で発表させたが、少し時間的にも難しかった。読み深めたこ

とを書かせてまとめるなど、もう一度じっくり考えさせる時間をとってよかった。授業の最後をどんな形でまとめるかなど、課題が残った。(新川)

●教科書教材で作品の魅力を話し合い、その上で本時教材文の魅力に迫るといように単元を貫く課題があり見通しをもちやすいワークシートがあればよかった。(新川)

△小学校でも古典を学習する。小学校での既習事項を踏まえ、生徒の学習意欲をかき立てるような学習活動を設定していくために、さらに研修が必要である。(新川)

●古文を読み「気が付いたこと」を「発表」し、さらに班での「気付き」を考えさせていたが、考えの深まりが浅かったように思われる。どのような観点で書けばよいのかを、絞っておく必要があったように感じられる。(新川)

△振り返りで多くの生徒に発表させていたが、切り返しで深めさせたい発言もあったので、2～3人程度に留めてもよかったのではないかと感じた。(新川)

△小グループでの話し合いに付箋を活用したが、付箋をボードに貼る際に、鉛筆で細かく書いたために全体討議での話し合いが深まらなかった。「サインペン」で「単語」で書く、ということ次回から実践したい。(富山)

●ワークシートの書き方の理解が不十分であり、話し合いの結果を色を用いて書き込むことができない生徒がいた。(高岡)

●グループでの話し合いは、雑談のような自然なやりとりのなかで互いの考えを深め合えたらよいと考えていた。しかし多くのグループは、一人一人の単なる発表になっている傾向があった。(高岡)

△生徒同士の話し合いでは「何に着目して質問すればよいのか」等、インタビューする側の指導も大切になってくる。(高岡)

△具体的な生徒の姿を想定した評価基準の作成、振り返りの大切さを意識すること。評価については、教師が目標を具体的に生徒の姿で描いておくことがポイントとなる。どんな姿が見られれば付けたい力が身に付いたといえるのか、具体的な目標であれば適切な評価が可能になる。そのことによって生徒のよさを見つけ、認めることができる。目標に到達していない生徒の支援もタイムリーにできる。さらに生徒自身が目標を意識し自己評価も容易にすることができる。(高岡)

△学習の成果を実感することができると力が定着し、次の学習への意欲につながる。(高岡)

●「こだわりのあるもの」をテーマとしたが、物があふれる現代社会を反映してか、なかなか決められない生徒も見られた。書くことの学習では、目的意識や相手意識をもたせる上で、テーマ設定が難しいと感じた。(高岡)

△生徒同士の交流活動では、インタビュアーの力が重要であった。どのような質問で書き手の思いを引き出せるかという視点が与えられれば、話し合いが活性化したのではなかろうか。(高岡)

△ねらいと課題の整合性をとる。生徒が課題に意欲的に取り組めるか。学習活動が具体的にイメージできるか。ゴールのイメージは明確か。(砺波)

△学習の課題を作品の交流か推敲かに絞り込む。今回は交流に絞れば良かった。(砺波)

△指導者からの指示、説明を減らし、生徒の主体的な学びを充実させる。そうすることで生徒に学びを実感させる。(砺波)

△本時でのグループ学習に付箋を用いる過程は必要だったか。具体例と意見、根拠と感想に色分けして線を引くなどの方法もある。また、一つのモデルを取り上げてスタートする方法も考えられる。グループで何をするかを事前にファシリテーターによく伝える。(砺波)

△毎時間5分の振り返りを行い、学びのbefore、afterを意識させる。(砺波)

△グループ活動を取り入れる際は目的を明確にし、グループで何をするのか、司会者によく伝えることが大切である。今回の場合は鑑賞文を読み合う授業であったが、目的が交流なのか推敲なのかがやや不明確であった。生徒が事前に書いた鑑賞文の完成度が高かったこともあり、交流に絞れば良かったのではないかという意見も聞かれた。(砺波)

**△授業の最後の5分は振り返りの時間を確保し、学びの成果を意識させることが必要である。(砺波)**

△部会協議①のグループ討議は少人数のため活発な話し合いが行われた。しかし、グループ討議の時間を25分程度しかとれなかったためやや慌ただしい感じがした。また、部会協議②についても6月の研究大会で研究授業を行われた先生2名に発表していただいた。お互いに参観できなかった授業から学ぶことができたが時間的に無理があり、質疑応答にあまり時間をとれなかった。**部会協議全体の時間配分について検討する必要がある。(砺波)**

△鑑賞文を書くために絵を2枚に限定したが、生徒の考えの交流を目的とするのであれば、生徒の好きな絵を選ばせるという方法も検討してみるとよい。(砺波)

△生徒同士の意見を交流させるために付箋を用いると、書くことに集中して話し合いの時間が十分とれないことがある。付箋の使い方について時と場に応じた工夫が必要である。(砺波)

### III

- 教科の中で、先々までの会場を決定しているのはいいのだが、教科ごとの計画なので、複数教科開催の学校が生じる可能性がある。そうならないように教科を超えた調整が必要と思う。今回の会場校の場合、翌週に特別支援部会も抱えており、大変そうだった。学校の合併等の予定が出てきており、今後、計画の見直しが必要となる。(富山)
- 市中教研の幹事会の後、指導助言者から適切な助言をいただき、全体会での指導案検討となった。日程としてはよかった。その後、もう一度、幹事会で再検討する機会をもちたかったが、都合がつかず、できなかった。(富山)
- 事前研修会を資料製本と兼ねている。会場校の担当の先生方や担当の市主任の事前準備が素晴らしく資料製本も早く仕上げることができた。スケジュール調整が難しい時期なので、大変助かった。(高岡)
- 現在、砺波地区では砺波市南砺市小矢部市で会場を持ち回り、さらに会場校も学校順で決めている。しかし、小矢部市の中学校国語か教員数が少なく、同じ授業者が研究大会で授業を行わなければならない現状にある。調整が必要である。(砺波)

### IV

- 部会協議2をなくして、開始時間をもう少し遅らせて欲しい。新川地区は移動に時間がかかるため、どの学校も、どうしても人手不足になる。(新川)
- 部会協議①・②ともに研修を深めようとすれば時間は少ないと思われる。指導助言もかけ足になる。部会協議のもち方について工夫できないか。(新川)
- 少人数教室のしきりを外した広い授業会場だったので、大人数でも参観しやすかった。また、前時までのワークシート等も掲示されており、これまでの学習の様子が分かってよかった。(新川)
- △どうしても研究授業を行う学校に負担が集中するので、各郡市の部長や授業者校の同一郡市の教科担当者にさらに役割を分担してもよい。(新川)
- △意見が出しやすいようにグループ討議にするのはよかったが、あらかじめ論点を絞っておいた方が話し合いがしやすいのではないか。(新川)
- △話し合いが停滞することがないように、だれがどのグループを中心に観察するのかを事前に決め、各会員に知らせた。協議会では、具体的な生徒の動きを基に、学習課題や教師の指示の出し方について意見交換することができた。また、なかなか意見がでない時は各グループの様子を順番に聞くことで、スムーズに協議を進行することができた。しかし、自由な意見や感想を求めても、自分から意見を言う会員はおらず、すべての意見は司会の指名によるものであった。事前に観察するグループを決めて様子を報告することによって、円滑に協議が進んだと捉えられる反面、もっと主体的に意見を言い合えるような手立てが必要ではないかと思われる。(高岡)
- 部会協議①では、事前に観察してもらおう学習班を先生方にお知らせしていたこととスムーズな司会のおかげで活発な意見交換がなされた。(高岡)
- 直前にアドバイザーの先生から学力向上推進チームによる講義へと変わったが、事前の打ち合わせがうまくいき、推進チームの福原先生にこちらの趣旨を十分汲んでいただき、全国学力・学習状況調査結果を基とした具体的な学力向上に関するたいへんよい講義を聴くことができた。(高岡)
- グループ活動が入るため、先生方に観察するグループを事前に知らせてみてもらったことは研究協議を進める上で有効であった。(高岡)
- △司会者が指名する形で進んだがOJTの観点から若い先生方にも積極的に発言してもらおう配慮が必要であると感じた。(高岡)
- 学力向上推進チームの全国学力・学習状況調査結果を生かした学習指導の話は具体的でわかりやすく、今後の授業にも生かせるものであった。(高岡)
- 5月30日南砺市立福野中学校、小矢部市立石動中学校で行われた砺波地区中学校教育課程研究大会についての発表により情報交換し、研修を深めた。(砺波)
- 授業後、ワークショップ形式で充実した研究協議を行うことができた。(砺波)
- 協議会を小グループでの付箋を用いたワークショップにしたことで、活発な話し合いができた。しかし、その分、授業者とのやりとりに時間がかけられず、授業者の思いを十分に聞く場面の確保が必要である。(砺波)

### V

- △アドバイザーを招いていただき、とても有意義な講演を聞くことができた。しかし時間的には、とても厳しく、資料をまとめた上での当日発表の時間が短くなった上、終了時刻が延びてしまった。アドバイザー配置事業の年は、開始時刻を早められるとありがたい。(富山)
- 中教研大会の授業者の決定について、なかなか難しい状況が続いている。(高岡)

## <社会部会>

### I

- ウェビングマップという手法を用いることにより、資料から読み取った情報を関連づけることができた。また、話し合いや学び合いを深める手法として有益であった。(新川)
- ワールドカフェ方式によって、自分たちのウェビングマップと他の班のものと比較することで、思考を深めることができた。また、タブレットの使用も効果的であった。(新川)
- 講演では、新学習指導要領の用語の解説、理論、評価基準等の話が聞けたので、大変有意義であった。内容も具体的な例示が多く、分かり易かった。(新川)
- 新学習指導要領で重視されている「概念」について、浜田教諭の実践をもとに理解を深めることができた。(新川)
- 小グループにおいて地図帳を中心とした活用は、広域の交通網の整備との関連を考えさせたり、地図帳活用の技能の確認を行ったりする上でも効果的であった。(富山)
- 公民は、偶然衆議院の選挙が行われるタイミングと重なり、生徒の意識も高く、3年後には有権者として自分たちが投票することの意義を理解していた。(富山)
- 8月部会において富山市社会部員全員で検討することができたので、当日、各々が視点をもって授業を参観することができた。(富山)**
- 複数回の幹事会によって指導案の中身を吟味する機会が多くあり、充実した指導案にすることができた。(富山)
- 今年度の新庄中の発表は、ICTを活用した授業や生徒の実態に合った導入の工夫等、各校でいかに内容が多かった。1月部会で、実践内容の共有を図りたい。(富山)
- 昨年同様の部員による研究授業トライを授業者本人が参観する機会を設けたことにより、最終段階での授業展開の練り上げに成功した。丁寧すぎるくらいの方法ではあったが、大変効果的であった。(富山)
- 例年よりも指導主事の先生にご指導いただく時期を早くに設定したので、早い段階で具体的なアドバイスをいただくことができた。(富山)**
- 知識の構造図について、昨年度の1月部会で実施したワークショップの成果を生かすことができた。また、附属中学校の先生にご指導いただき、改善につなげることができた。(富山)
- 導入や終末で新聞記事を使用したことで、地域統合の課題について考えさせる意欲を高めていた。生徒にEUの現状を身近に感じさせる上で有効だった。(高岡)
- 学習内容を経済面に焦点化して必要な資料を精選することで、生徒の資料活用を支援し、統合の課題について資料からの確に捉えさせることができた。(高岡)
- 個人→班→全体の流れで意見を交換・共有することで、正解のない問題について考えようとする姿勢や、他者の意見を取り入れながら自分の考えを練り上げる経験を獲得させることができた。
- 研究協議での「シェアの時間」があり、近くの先生と率直な考えを話し合っただけで共有でき、各自の問題意識が明確になった。(高岡)
- 指導助言では、研究授業を画像で振り返りながら解説をしていただいたので、どういった指導・支援が生徒にとって良いのかよくわかった。(高岡)
- 研究発表は、Power Pointを使用した説明であったので、わかりやすかった。(高岡)**
- 生徒が主体的に学ぼうとする学習活動の工夫として、「ア興味を持つことのできる学習課題の設定」「イ問題解決型の学習や具体的・体験的な学習の導入」「ウ多様な考え方に触れ、自分の考えを深める学び合いの場の工夫」に取り組んだ。アについては、身近な題材や話題となったニュース等を課題に取り上げ興味関心を喚起し、イについては社会問題を取り上げ、模擬的な学習を導入することやゲストティーチャーを活用し問題解決型の具体的・体験的な学習に取り組みせ、ウについては、「個→小集団→全体→個」といった多様な学習形態を導入したり、男子同士、女子同士を横に座らせ活動させる社会班を設定したりすることによって多様な考えに触れさせ、考えを深めさせることにつなげた。(砺波)
- 授業を通して、地方自治に関わっていかなくてはという気持ちにすることにある程度成功した。今後、自分の住む地域の政治に関わっていく姿勢にするために、身近な、今実際に起こっている課題をそのまま授業で取り扱い、単元の最後には市への提言を自分が書くことで主体的に関わることができるようになると思う。自分の市町村に対する事前学習での思いと、事後に提言することの中身の違いから、今回の授業による生徒の変化が感じられた。(砺波)
- 根拠をもとに理由を話す生徒を育てる必要がある。本時では教師が「なぜ?」「根拠は?」と批判的な考えの視点で投げかけていたので深まったと思う。(砺波)**
- 単元の再構成に取り組み、「知識の構造図」を作成した。単元を貫く課題を設定し、単元を通して解決していく問題解決的な学習に取り組み、生徒の認識の深まりを可視化することで、基礎的な知識をどこで身に付けたのかが分かるようになった。また、指導計画と関連付けることで、学習の充実、知識の習得、概念の獲得が確かなものになった。(砺波)

### II

- 手法に走りすぎていないか。目的に合った手法か吟味して用いることが大切である。(新川)
- △事後の部会協議では視点を以下の二つに絞る。
  - ①授業仮説は、本時の目標を達成するために機能したか。
  - ②授業仮説は、研究テーマを達成するために機能したか。
- 授業仮説をしっかりと立てることや、「問い」が生徒を揺さぶるものであるか、探究心をもたせること

ができるかなどの視点を大切にして授業を行いたい。(新川)

- 数年前に比べ、幹事での授業案検討をする回数が増え、幹事によるトライ授業も行う等、協力体制ができてきているが、負担との兼ね合いを考えなければならない。(富山)
- 教科の特性であるが、資料の選定や精選は授業を大きく作用する。特に、地理や公民は時事を扱うことや広範囲な扱い等に醍醐味とともに苦労もある。部会全体での資料収集や活用の意識をもう少し高める必要がある。(富山)
- 大会当日に至るまでの事前(指導案)検討会に多くの時間を要しており、授業者や幹事になるべく負担のかからない、効率のよい事前研修の進め方を工夫しなければならない。(富山)
- 学習課題の検討や評価方法について、研究の余地がある。(高岡)
- 深い学びとはどのような状態で、どうなれば達成したといえるのか、学習課題や評価方法について、さらに研究していく必要を感じた。(高岡)
- △部会協議②の研究発表の在り方について、毎回3市の研究構想、研究方法、研究大会の様子の報告をおこなったらどうか。(高岡)
- 地域教材は膨大な事前準備が必要になる上、いつも使える教材とは限らず、生徒との関わりのある仕事、分野も多いので、未確定な事柄の取扱いには人権意識を働かせて教材研究を進めることが必要である。(砺波)
- ランキングを用いる際は、違いについて、自分の主張、その理由、理由の根拠を述べさせ、より深い学びに繋げる必要がある。(砺波)
- △単元の構造図は、今後資料として添付するのもしないのか、形式はどうするのかをはっきりとさせたほうがよい。形式や作成の仕方がばらばらでは協議できない。(砺波)
- 知識の構造図は重要で、私たちの研修になると思うが、すべての單元ごとに教員が行うのは非常に負担が大きい。(砺波)

### III

- 学校規模の変更や年度末の異動等で会場校の選定に難航した。(富山)
- △今後の授業担当のあり方について、各学校が同じベクトルで協力しながら取り組む姿勢が必要である。(富山)
- △学校別で授業が当たるシステムは、他教科のように個人へと変更できないか。(高岡)
- △会場都市、会場校の決定については、南砺市の教員が多いので考える必要あり。(砺波)
- 会場校は、工事中で体育館の中に特別教室があるという状態であった。授業者や会場校を決める際に配慮できたのではないか。(砺波)

### IV

- △協議会は1つのテーマについて議論する形だとよいと思う。各班からの報告だけで終わってしまったのが残念。(新川)
- 部会協議の充実のためには、少人数グループでの話し合いは有効ではあるが、それらを発表して終わってしまうのが現実である。(授業も同様)(富山)
- △協議会では、拡大した指導案上に付箋を貼ったが、視点や意見が比較的広範囲に渡り、共通点等を探しにくく、せつかくまとめたのに、十分に活用できていなかった。参加部員数を考慮しながら貼る付箋の数を決めた方がよいと思う。(高岡)
- 研究発表については、発表だけで終わってしまい質問や意見交換などの協議ができなかった。時間をかけて準備をされているのに、大変もったいない。(高岡)
- △欠席届の取りまとめは、各郡市部長とりまとめて欲しい。(高岡)
- △授業力向上のためのアドバイザー講義は米田先生の予定だったが、取りやめになった。来年度は砺波地区でアドバイザーの講義が行われるよう配慮願いたい。(砺波)

### V

- △中教研事務局から出していただく各種様式ですが、一太郎だけでなくword形式のも用意してもらえると嬉しい。(新川)
- △各種様式ですが、8月第3週にインターネット上にアップしてもらえないか。(富山)
- △新学指導要領についての説明が研究発表の指導助言であったが、社会部会として共通理解を図る場があればと思う。教科書の内容などを早めに確認するなど。(富山)
- △一昨年も感じたことだが、「大会を終えて」は、授業のあった郡市の部長が集約して報告、提出する方法がよい。同じ大会で研修した他市の部長それぞれが、ほぼ同内容の報告をする必要は無いと思う。(砺波)

## <数学部会>

### I

- 相似な図形の性質は簡単に終わらせがちであるが、1時間かけて丁寧に生徒に見付けさせたことよきが出ていたように思われる。(新川)
- 普段ならば、教師側で簡単に確認してまとめてしまう性質を生徒たちにじっくり考えさせ、まとめさせようとする過程が、日頃の授業を省みるきっかけになった。(新川)
- 普段は「相似の性質」を教師主導で説明しているが、生徒自身が数学的活動を通して考えることによって、性質や言葉の意味をしっかりと実感することができた。(新川)
- 方眼紙を主として用いたことで、相似な図形の辺の長さが比較しやすくなり、性質を考察する上で効果的であった。(新川)
- 広い教室で、参観しやすかった。(新川)
- 相似の性質が生徒から出たのはよかった。面積比の性質に気付いた生徒が出てきたことにも驚いたが、それについて深められなかったのは残念だった。
- グループを作り、ホワイトボードを持たせ、話し合い学習を取り入れると、それらしい授業に見えるもの。しかし、今回は多くの先生方に集って頂いての研究授業と考えると、授業のテクニックより、たとえ失敗しても構わないので、日頃考えていること、思い描いていることなどを、このように展開してみたいという指導者の気持ちや意思が感じられるものであってほしい。(新川)**
- ホワイトボードが各班に1枚ずつあり、班で活発に話し合いが行われた内容がしっかりとまとめられていた。(新川)
- 対話を取り入れにくい単元に、班活動を通して、対話しやすい環境をつくり、対話を取り入れる授業に挑戦されていた。(新川)
- グループでの話し合い活動を取り入れたことで、自分では気付かなかった相似な図形の性質を、他者の意見から気付き、理解を深めるのに効果的であった。(新川)
- 授業力向上のための講義では、「主体的な学び」と「対話的な学び」とはどのようなものか分かりやすく示していただき、今後の授業づくりにとても役立つものであった。(新川)
- (1年)数直線やイラスト等、課題提示の仕方が有効であった。(富山)
- (2年)水が一定の割合で落ちてくるように工夫された、問題に合った水槽を再現し、実験を取り入れることで、どの生徒も生き生きと授業に取り組んでいた。今回のように実験を取り入れた授業に今後も継続的にトライしていくことが大切である。(富山)
- (2年)個人で取り組む時間を確保した上で、グループ活動に入ることで、互いの意見を聞き合うとともに自分の意見との違いを考えながら思考を深めることができた。
- (3年)活動に入る前の指示が丁寧に分かりやすいこと、ICT機器を効果的に活用していたこと、生徒の実態を把握し、課題の難易度が適切であること等、授業のイロハについてあらためて考えさせられた。(富山)
- (北四)お小遣いの値上げという身近で必要感のある題材を取り上げたことで、生徒の興味・関心を高め、データを活用して相手を説得しようと思欲的に取り組んでいた。(富山)
- (北四)はずれ値の扱いに関する指導助言がとても参考になった。(富山)
- (北四)ねらいに迫れるようなデータ設定の必要性について学ぶことができた。(富山)
- 2年生の学習は、ペットボトルの冷水が40分後に何度になっているか予想する学習課題であった。具体的な事象について、表、式、グラフを適切に利用し、考察する内容であった。生徒は、実験結果を表に記述した後に、グラフに表したり、式に表したりすることで、1次関数とみなして水温を予想していた。3年生の学習は、ギャラリーの高さを各自が選択した実験で求める課題学習であった。相似の考えを使う3グループ、関数の考えを使う3グループ、直角二等辺三角形を使う1グループの計7グループであった。それぞれ誤差の取扱いに注意しながら測量したり、時間を計ったりして高さを求めていた。両研究授業ともに、根拠を明確にしながら自分の考えを述べるよい授業であった。(高岡)
- 多数の部員が参加した大会であったが、2年生の授業会場は、理科室、3年生の授業会場は体育館であり、十分なスペースがあったので、授業者と生徒の注意力を妨げることなく2会場の移動が容易にでき、どちらの授業の参観も可能であったのがよかった。(高岡)
- 実際に体験する中で、課題を解決でき、生徒たちが意欲的に学習に取り組むことができていた。(高岡)
- 1次関数の授業では、実験をしたことで、事象を数学として捉えて考えることができることや、数学として捉えた事象をもう一度、実際の現象として捉え直すことで、数学の有用性を感じることができた生徒もいた。(高岡)
- 課題学習では、体育館のギャラリーの高さを求めるという1つの目的に対して、これまでに学習した様々な内容を利用し、生徒たちが自分で選んだ方法でアプローチする中で、学習内容が相互に関連していることを実感することができていた。(高岡)
- 講演では、新学習指導要領での「理解」ということばの意味を教えていただいたので、今後の指導に活かしていきたい。(高岡)**
- 携帯電話の料金という題材は、生徒にとって身近で必要感を感じていた。(砺波)
- 3種類の料金プランのどれがお勧めプランなのかを、1つのグループを携帯ショップの店員側と客側に分けて演じるロールプレイがよかった。(砺波)
- 実際のデータ(乾電池の耐久時間や気温、お小遣いなど)を取り扱うことは生徒の興味・関心を高める上で、大変効果的であった。(砺波)**
- 立場を明らかにして、互いの考えを伝え合う活動は、既習事項の定着や考えを深める上で大変効果的で

あった。(砺波)

○グループ活動で、キャッチフレーズを考えたことは、個々の考えを深めるに上で効果的であった。

(砺波)

○砺波地区数学研究グループの発表では、問題発見・解決の2つの過程(日常生活や社会の事象、数学の事象)の両方から主題解明を図ろうとしている。2種類の事象で実践することにより、より深まりと広がりのある研究になっている。(砺波)

## II

**△話し合いの時間が設定されていたが、個々に気付いたことの確認に終始していたように感じた。もっと発展的な課題設定をしてもよかったのではないかと思う。(新川)**

△生徒の発表はホワイトボードに書かれたものをただ読み上げるのではなく、各班から出た意見の共通点、相違点を上げるなどして、生徒に性質をまとめさせてもよかったのではないか。また、その活動時間も想定した授業展開。(新川)

**△もっと独自性があるのもよいと思う。(教科書に合わせなくてもよい)**

●授業の中で見つけたものを、根拠を示しながら話し合う授業を実践しないと、数学的な見方や考え方は育っていかないと考える。(新川)

△互いの根拠を吟味することが必要ではないか。(新川)

△今年度の北四数では、その場で小グループ(3~5人)をつくり、話し合い後に、意見や質問を受けていた。短時間で、全体の意見を聞くことができるので、このような研究協議のもち方もよいと思う。(新川)

△十分な話し合い活動を行うための時間の確保。(新川)

●より深く考えるための準備をどのように行えばよいか。(発問の工夫等)(新川)

●確認問題や振り返りに十分な時間が取れなかったため、各班の発表方法を工夫する。(全部の班が読み上げるのではなく、意図的に指名する等)(新川)

△授業会場にたくさんの人が入る工夫はされていたが、生徒の様子を見ることができるよう工夫があればよい。(机の間隔もあまりなかった)(新川)

●ホワイトボードの活用の仕方。複数の性質をかかせるのと、まとめのときに見づらい。(新川)

△時間の使い方、短縮すべきところは短縮し、ねらいに迫る部分に時間を使いたい。(新川)

●班活動後の全体へのフィードバック方法。できれば、生徒にまとめさせたい。(新川)

●「大きさが2倍になると面積が4倍になる」という意見に対して、どうフォローするのか、生徒がどんな意見を出してもとっさに適切なフォローができるよう準備しておく必要がある。(新川)

**△昨年度は付箋を用いて、今年度は授業の視点が書かれた用紙を用いての協議会であった。今後も、協議会のもち方に工夫が必要とされる。(新川)**

△チャイム後も授業をしばらく続けていた。指導案通り進めなかったのであれば、それは展開の時間配分として研修していけばよい。(新川)

△協議会の形式を、グループ単位での討論を含んだものにしてはどうか。(新川)

△今年に限ったことではないが、東部大会での教科部会の会員数と、研究授業の会場がマッチしていない。教室も広く横からも見やすい会場の方がよい。今後は、複数の研究授業に展開することも検討してはどうか。(新川)

●授業に実験を取り入れるときの課題として、数学が苦手な生徒にも分かりやすい説明が必要であること、実験に時間を要することから、学習課題を追究する中で説明するための時間が十分とはいえなかったことがあげられる。(富山)

●言語活動の重要性が叫ばれる中、「かく」と「描く」、「図」と「図形」、定義の中にある「一定の割合で・・・」等の用語を、私たち教師が普段の授業の中で正しく使っていくべきである。(富山)

●ディオファントスの一生をx歳と表したことが生徒の思考のつまづきとなっており、単位の大切さを再認識した。(富山)

●時期が決まっているので、同じ学習内容(関数領域)の授業になりがちである。今年は、3年生で相似と関数を連携させた課題学習に取り組んだが、来年度も工夫したい。(富山)

△今年度の会場校は、校長も教頭も数学部員であり、運営面でかなりの協力をいただき、助かった。しかし、年度によっては同じようにできない場合もあるので、状況によっては、運営委員を増員した方がよいのではないかと考えている。(富山)

**●せっかく工夫され、提案していただいた授業なのにも関わらず、協議会が活発に行われなかった。様々な意見をもっておられると思うので、協議会のもち方ももっと工夫すれば、より充実した時間になると思う。(富山)**

△なかなか選定が難しいと思うが、授業者はある程度経験のある先生がよい。中教研研究大会の授業は、若手の先生が授業をして研鑽するというよりも、研究主題に沿って授業を提案し、その授業を基に議論を深め、以後の実践につなげる場であると思います。今回は2名のうち1名は2年次の先生でしたが、協議が深まるような授業ではなかったと感じています。よって、一定以上の経験のある先生が授業者になることを望みます。

●1グループが6~7人だったため、3~4人で交渉の作戦を考えるのだが、その話し合いにあまり積極的に参加していない生徒も見られた。(砺波)

△前時まで学習した内容を掲示し、それを発表に使えるように教師で促す必要がある。また、掲示物はより分かりやすく端的にまとめる。(砺波)

△本時の学習目標を絞ることで、よりねらいが明らかになり、活動内容も絞られていく。(砺波)

△授業形態として、個別1グループ1全体ではなく、個別→グループ→個別という流れのほうが、より個

々の考えが深まる授業になるのではないか。(砺波)

### III

- △各校にデータで配布し、各校で印刷してもらうのはどうか。(新川)
- △研究授業校の先生方で、資料の印刷や製本等を担当してくださり大変に助かった。しかし、数学部員が多い学校だったからできたのであり、そうでない場合は、協力する体制を作る必要がある。(新川)
- △例年、配布資料を受け取り、簡単に当日の確認をするだけの出張なので、勤務校に迷惑がかわからないような時間設定にする。(新川)
- 授業の指導案、発表資料それぞれの印刷・製本を分担しながら進めていくことで、配布までをスムーズに行うことができた。(富山)
- 授業と研究発表の両方を検討できればよいが、時間的に難しかった。研究発表の検討をしないなら、発表者を招集する必要はない。(砺波)

### IV

- 部員が70名前後になるため、生徒、教員ともに慣れない環境で準備等大変だった。普通教室では見学者が入りきらないので、オープンにできる特別教室を使用した。(新川)
- △授業を1クラスのみだと、十分に参観することができない状況である。会場校の規模にもよるが、2クラスでの開催も検討する必要がある。(新川)
- △多くの教員に参観されながらの授業は緊張感があり、生徒も普段とは違う反応が見られた。研究授業以外にも互見授業等をより積極的に取り入れる必要があると感じた。(新川)
- △アドバイザーの講義との兼ね合いで、1年おきに北四大会の発表が紙上発表となっているが、簡単な内容説明でよいので、発表の場があればよかった。(新川)
- △小グループに分けての協議を設定するなどして、意見交換がしやすくなるようにすればよかったのではないか。(新川)
- 全体で協議することで内容に深まりがあり、全員で共有できた。(新川)
- △指導主事の助言指導の時間を考慮すると、実際に数学部員が研究授業に対して協議できる時間が十分になかった。こういうときこそ、普段交流できない数学部員と協議しいろいろな意見を聞きたいと思うので、時間を確保してほしい。(新川)
- 研究協議の場であまり発言が出なかったのが残念であった。指導案の中に、2つの視点が書かれていたが、事前に受付で2つの視点を記載し、先生方が意見を記述しやすいようワークシートを配り、よかった点・改善点を記録してもらった上で研究協議に参加してもらえばよかった。(新川)
- △ある年の研究協議では、付箋を用いたKJ法で行われていたが、時間が短く最後に全体での共有ができなかったという反省がなされたが、しっかりと時間を確保しKJ法で行う方が、それぞれの先生方も自分の考えをもって研究協議に参加できるのではないか。(新川)
- 当日の授業の様子を素早くまとめ、写真を見せながら的確な指導や助言をいただけて、大変に参考になった。(新川)
- △アドバイザーの講演は無くてもよいのではないか。(新川)
- △協議会での発言が少なく、話し合いに深まりがなかったように感じる。授業、発表ともにすばらしい内容であったことから、活発な意見交換ができる協議会の進め方を検討する必要がある。(富山)
- △アドバイザーは数年で、新しい方をお願いしてはどうか。(高岡)
- 北陸四県数学教育研究大会と兼ねていて、県外の方が多かったため、研究協議は、4～5人の小グループで行い、そのグループで出た内容を全体の前で発表するという形で行われた。たくさんの参加者が自分の意見等を発言することができ、よかったと思う。(砺波)

### V

- △毎年時期が固定されているため、数学の場合研究授業の内容がある程度定まった単元になってしまう。時期を弾力的にずらすことを可能にできないか。(新川)
- △アドバイザー配置の場合も北四部会の発表ができるよう、時間の確保が望まれる。
- 今年度は、北四と中教研を兼ねた形で研究大会を行ったのだが、北四の打合せに一度も参加しないまま当日をむかえることになり、会員の不安が募る形になった。なるべく北四の打合せにも参加させていただけると混乱はなかったと考える。(砺波)
- △砺波地区で16年ぶりに北四研究大会が行われたことや、事務局が高等学校部会にあったことなどからか、詳細がつかめないまま当日を迎えた感がある。組織の縦横の事前連絡も十分ではなく、当日のコミュニケーションで隙間を埋めながら準備し、日程をこなすことができた。今回の大会や他県他地区のやり方からマニュアル化を図り、準備・運営がスムーズに行えるようにするとよい。(砺波)

## <理科部会>

### I

- 生徒の実態に応じた実験準備(事前アンケート)や、授業形態の工夫(ワークショップ形式)等を行うことで、生徒の深い学びにつながった。(新川)
- 自主学習ノートを工夫することで、生徒の学習意欲の向上や基礎学力の定着につながった。(新川)
- 生徒に付けたい力を明確に意識した授業であり授業のどこに重点を置くかが意識されていた。(富山)
- 実験方法を生徒に選択させることで、課題解決への意欲向上につながった。(富山)
- ICT機器を活用し、実研手順のポイントを生徒に効率よく理解させることができた。また、そのことで考察や話し合い、発表の時間を確保することができた。(高岡)
- 本物に触れることは、生徒の五感に訴え記憶に残る授業となることがわかった。(高岡)
- 生徒の実態の把握と教材研究の大切さが改めてよく分かった。(砺波)
- 1時間の流れを示すことで生徒が見通しをもって授業に取り組めた。(砺波)
- ICT機器の活用について参考になった。(砺波)
- 授業力向上のための講義では、新学習指導要領における授業の改善に生かすための基本的な考え方が良く理解できた。(富山、砺波)

### II

- ねらいに沿った学習課題の設定について、研修を深めることが必要である。(新川)
- 発展的な内容を扱う場合、物性をより深く研究しておくことが必要である。(富山)
- △生徒に対する事前調査は、全国学力学習状況調査に合わせたものにするなどの工夫があれば良かった。(富山)
- グラフ化させる場合の条件統制(独立変数の扱い等)の工夫が必要である。(富山)
- △生徒の予想を結果と対比する時間を取り、より深い理解につなげていけば良かった。(高岡)
- 研究主題と本時の目標の関連に疑問が残った。(高岡)
- 研究主題に迫るためには、教師の発問や生徒同士の話し合い、発表の仕方の工夫についても検討をしなければならぬ。(砺波)

### III

- △砺波地区では、春の大会は南砺市と小矢部市・砺波市の2会場で研究授業を行い、秋は3市で持ち回りになっている。小矢部市には理科教員が7名しかおらず、何度も研究授業を行っている。各市の教員数を考慮した授業校の決定ができるように、ローテーションにとらわれない決定方法を考えていきたい。(砺波)
- △地区研究会では、連絡調整の都合上、部会責任者は大会校または大会校のある郡市の教員が行うのが望ましい。(新川)
- △研究発表資料については、ひな形があると作成しやすい。(新川)

### IV

- △毎年同じ時期の開催なので、研究授業は、いつも決まった単元での実施となる。単元の入替えも考えられるが、11月の学力調査の関係もあり難しい。隔年で時期をずらすなどの工夫ができないか。(富山)
- △アドバイザーの講義がある年は、協議時間が短くなるので、深まりがある話し合いにするための工夫が必要である。(砺波)
- △例年協議2で6月の研究授業の報告を行っているが、今年はアドバイザー事業のため紙上発表のみとなった。今後内容も含めて検討していかなくてはならない。
- △全体会にすると話し合いが深まりにくいので、小グループによる話し合い等協議会の形態を工夫すると良い。(高岡)

### V 特になし

## <音楽部会>

### I

- ICT機器を活用した創作活動は、大変参考になった。今後の創作の授業への可能性を感じる先進的な授業であった。(東部)
- 全学年を見通した創作の授業であった。生徒の能力を引き出すための工夫が感じられた取組が見られた。(東部)
- 創作活動の前に、鑑賞活動を取り入れることによって、生徒が、音楽と情景、音楽とイメージが深く結び付いていることを理解したり、深く考えたりしながら学習することができた。(東部)
- 生徒の実態や思いに沿ったねらいの設定、ねらいを達成するための過程の中で、グループ活動の在り方や、タブレットを活用した発表の仕方に工夫が見られた。(東部)**
- 掲示物等がしっかりと作成され、本時の流れや作曲の仕上げまでの方法が明確に提示されており、本時の学びが分かるように工夫されていた。(東部)
- 一人一人が創作した旋律が上手くつながるように、話し合い活動(言語活動)が行われており、グループで大切にしたいことが共有されていた。(東部)
- 音楽科で最も課題の多い「創作」の分野において、多くのヒントや工夫点(課題の提示、記譜の方法、階名唱、ICTやホワイトボードの活用、仕切り板、イメージ写真の掲示等)を参観させてもらい、大変参考になる授業であった。(東部)
- リズムや形式等、各領域で身に付けさせたい力を明確にし、3年間を見通した創作活動の指導計画を作成し、実践していきたいと感じる授業であった。(東部)
- 明るくパワフルに生徒を引っ張る教師の姿勢に引き込まれる授業であった。授業の雰囲気は、教師のキャラクターが大いに関係すると感じた。(西部)**
- 合唱の楽譜に書き込む形式のワークシートを提示したことが、生徒の考えを引き出すのに有効であった。(西部)
- 教師が前面に出て一斉授業する場面、パート別練習、グループでの話し合い活動等、様々な学習形態があり、それぞれに工夫があった。(西部)
- 教師が、歌い方を範唱で示しながら、授業を進める部分があり、教師の情熱やイメージしてほしいことが声や表情等で伝わる授業で、自分の授業を振り返り、反省するよい機会になった。(西部)
- 単なる音楽記号というとらえ方だけではなく、その記号にどんな思いや意図があるかを考えながら表現を工夫させる深い内容の授業であった。(西部)
- パート練習のポイントを示してから、練習に向かわせたことによって、生徒は何をどのように練習すればよいかを理解して練習していた。(西部)
- 本気で生徒の成長を期待しながら、授業を行っているのが伝わる授業で、中学校1年生にふさわしい意図があふれる授業であった。(西部)
- 〔共通事項〕の絞り込みがなされており、この合唱教材で学ばせたいことに焦点をあてた授業であった。特に、ワークシートに工夫があり、強弱を手がかりにして思いを表現できる授業であった。(西部)
- 強弱記号の裏にある作曲者の思いを生徒が共有し、それを実践することで、本時のねらいに迫る授業で、自分の合唱の授業に生かしたい部分がたくさんあり、勉強になった。(西部)
- 生徒の発達段階に合わせた合唱指導を参観できたので、ためになった。欲張らずに、視点を絞ることで、生徒は着実に音楽活動に取り組んでいた。(西部)

### II

- キーボードが弾けない生徒は、歌やリコーダー等で創作活動に参加できるように工夫すればよかった。(東部)
- 創作活動が段階的に進められるよう、指導や準備、環境整備等が行き届いた授業であった。しかし、このような授業を行うとすれば、かなりの事前準備が必要であったり、キーボードやタブレット等の機器の配置を行ったりするなど、音楽室等の環境整備が大変である。各学校の通常の授業や音楽室では、このような創作活動は難しい現状がある。(東部)
- 研究授業の準備等がとても大変だと思った。よりシンプルで取り組みやすい創作活動の指導モデルが必要であり、研究大会での取組が、普段の授業に生かせるものになってほしい。(東部)
- 創作の授業でのルールやワークシート等が配布されなかったので、今後の授業に生かすために、資料がほしかった。(東部)
- △創作活動を行う上で、ある程度の条件のしぼりがあったほうが、課題に迫りやすかったと思う。(東部)
- △創作活動以外の授業でもICTを活用し、録音や録画、グループ学習等を行うなど、授業改善に向けて工夫していきたい。(東部)
- 「創意・工夫」(生徒の思いや意図)をどのように評価していくかについて、さらに研修する必要がある。(西部)**
- 授業校が工事中のため仕方がなかったが、合唱のパート練習を同じ部屋で行ったため騒々しく、表現がふさわしいかどうか生徒が聴き取れない状況であった。(西部)
- △パート練習で、CDを利用したが、本時のポイントがすぐに練習できるよう、CDにインデックスを付けておけば、合唱曲の途中から練習することが可能となり、もっと効率のよいパート練習になった。(西部)

△パート練習の後、その成果をパートごとに発表したり、聴き合ったり、認めあったりする場面があればよかった。（西部）

△パート練習の際の伴奏者の配置は、配慮が必要である。特に、今回の授業では、アルトパートに伴奏者を配置すれば、充実した練習が可能になったと思われる。（西部）

### III

●**会場校や授業者の決定に難航した。早めに授業者を決定しておくことが望ましい。**  
（東部）

●黒部市の部員が授業者を含めて4名であったため、指導案の検討や事前準備等の負担が大きかった。部員数の少ない教科は、新川地区で一緒に連携・協力できるように、新川地区の中教研の研修日等を統合し、合同部会にしてほしい。

（東部）

△研究大会の指導案綴りの製本を授業校でやっていただき、負担をかけてしまった。

（西部）

### IV

○協議会①のグループ協議では、効率よく話し合い活動が行われるように、椅子の配置等が適切になされておられ、司会等の進め方もよかった。他校の教職員と話し合う機会が得られたので、有意義であった。

○研究協議②では、丸山主任指導主事から、新学習指導要領のポイントを分かりやすく教えていただき、感謝している。（東部）

△協議会①のグループ協議は、一人一人が意見を述べやすかったが、各グループでの話し合いをシェアリングする時間が少なく、もっと研修する時間がほしかった。今後は、一日研修会にしてほしい。

（東部）

△**指導助言の時間や協議②の指導講話の時間をしっかりと確保してほしい。年に1回の研究大会のため、ゆとりのある研修会としてほしい。アドバイザーや指導主事の講話をしっかりと聴講したい。**（東部）

○生徒が学びを実感できるように、教師が意図的に授業を仕組み、仕掛けのポイントについて説明することができる協議会で有意義であった。（西部）

○扇谷主任指導主事の指導助言は、大変分かりやすく、もっとお話を聴きたかった。（西部）

○齊藤教授（アドバイザー）の講義は、音楽科教員の視野を広げ、新学習指導要領の方向性を分かりやすく示すなど、大変充実したものであった。特に、知覚と感受の関係を思考する機会を与えていただき、感謝している。実際にピアノを演奏しながら、例を示していただき、鑑賞と表現活動の往還が重要であることを理解できた。（西部）

○教材曲だけにとらわれず、生徒が聴いてみたい音楽、生徒が出してみたい音、好奇心をかきたてる素材、感動できる教材等を取り上げた授業をしてみたいという意欲の出る講話で、次年度も講義を受けたいと思った。（西部）

△ほとんどの学校で音楽教師は1名であるため、研究大会での研修は、貴重な体験である。特に、ベテラン教師が急激に減り、若年教員が増加している昨今、基本的なことであっても、協議会で話題にしたり、グループ協議を取り入れたりすることで研修が深まるよう工夫することや、研修の時間をもっと確保することが重要である。（西部）

△協議①では、少人数での話し合いや、部員の日頃の合唱活動の取組みについて、共有する場面があればよかった。（西部）

△**齊藤教授の講義は、多岐にわたる深い内容で、もっとお話を聴きたかったが、時間が短く残念であった。年間を通じて、音楽科の研修を受ける機会が少ないので、毎年受講したい。**（西部）

### V

△今年度は、中新川郡と滑川市の中教研では、合同部会を行うことができたので、大変勉強になった。新川地区は、各郡市の部員数が少ないので、今後も合同部会の輪を広げ、連携していきたい。

## <美術部会>

### I

- 課題に沿って自らの姿を撮影し、苦勞して制作された掲示資料や参考作品がたくさんあり、どんな作品を目指せばいいの方向性が生徒に伝わっていた。(東部)
- 「未来の今の自分を届けよう」という題材設定により、自分を見つめる、自分を知る、十年後の視点から今の自分を見る、自分の将来の夢を実現するために今の自分をよりよい自分に変えるという流れがしっかりと考えられていた。(東部)
- 作品例のA、Bどちらもそれぞれいいところがあるという指導に変更したことが功を奏し、否定的な発言をする生徒が減った。(東部)
- 友達に意見や感想を求めて多くのアドバイスをもらった結果、この後どのように進めればいいのか迷った場合、自分の感性を信じて決めていけばいいんだよという指導がよかった。人の意見を無分別に受け入れて、逆に自分を見失ったり混乱したりする生徒が出ないようにする配慮は必要。(東部)
- ヘルプと言って先生にアドバイスを求めてくる生徒がいて、教師と生徒の信頼関係ができていたことがわかった。(東部)
- たくさんのワークシートが工夫され、「自分を知る、見つめる、将来を考える」ということに十分時間をかけていたので、自画像のテーマがしっかりと決まっていた。(東部)
- 主題を決定し、発想を深めるためのワークシートが工夫されており、生徒の内面を見つめる活動を重視させたいという教師のねらいに沿っていた。(東部)
- 発表のルールや話し合いのポイントが明確に提示されており、生徒たちの活動がスムーズに行われていた。また、発表原稿がしっかりと準備されており、生徒たちが自信をもって自分の作品を説明していた。(東部)
- 授業では、写真をシートにコピーすることで、各自思い思いの背景を自由にシートに重ねて試行錯誤することができたのでよかった。(東部)
- 自画像に関連する資料を自分図鑑として集めており、それを基に新たな発想を広げるヒントとなっていたのでよかった。(東部)
- 写真のポーズの具体例や撮影の角度、点描の粗密による表現の効果など単元と関連づける資料が豊富に掲示されており、生徒の思考を深める活動につながっていたと思われる。(東部)
- 生徒たちにとって、話し合いのポイントや作業の諸注意がしっかりと掲示され、また、生徒の思いを叶えるための十分な掲示物や授業準備がなされて、安心して伸び伸びと授業に取り組んでいた。(東部)**
- 振り返りで、本時で学んだことを今後の表現につなげていこうとする生徒の発言が多かった。話し合い活動を通して自己決定していく姿が見られ、参考になった。(東部)**
- 点描は、自画像を描くことに抵抗を感じる生徒にも自信をもって取り組める表現方法であった。(東部)
- 「考えを深める」「考えを広げる」というつながりができていた。(東部)
- フェルメールの点描練習は単なる点描練習ではなく、作品を写し取りながら作者の想いを伝える技法を学ぶ時間となっていた。(東部)
- 作品や作者に関する様々な情報を理解した上で模写を通して鑑賞活動を行うことは、作者の思いや表現の工夫を感じ取るのに大変有効だと感じた。(西部)
- いままでの実践の上で、発想力が乏しい生徒に対しての手立てということで考えた題材という思いが伝わった。(西部)
- 本時でのグループでの話し合いの様子が大変よかったので、それが全体の場で広げられる時間があればよかった。(西部)
- 表現と鑑賞を関連させるために、名画と呼ばれる西洋・東洋の作品の中からいくつかを選び、その作品のよいところを取り入れたリメイク作品を制作したことで、生徒が美術作品に関心を持ち、模写と鑑賞を通してその絵画のよさや美しさについて感じるようになるように工夫されていた。(西部)
- 研究授業では、グループによる「鑑賞会」を行うことで作者の思いに触れ、友達の作品のよさを感じ取ると共に、自己の作品の紹介では、振り返りなどの要素もあり、生徒が作品にじっくり向き合う機会となっていた。(西部)
- 鑑賞会では、個々の作品を絵皿立てに立てて鑑賞したことは効果的であった。(西部)
- 研究の視点の「表現と鑑賞を効果的に関連させる指導の工夫」に迫るための手立て、工夫がされている取り組みであった。(西部)
- 作品の大きさが小さいが、限られた時間数の中で完成度を下げないためにはちょうどよかった。(西部)
- 発想の段階でつまずく生徒への支援の手立てとして、名画からリメイクするという方法が効果的で、どの生徒も達成感があったのではないかと思う。(西部)
- 教師の生徒への言葉かけが、大変丁寧だったので、生徒は自分が大切にされているという安心感をもって制作に集中できていたと思う。(西部)**
- 模写をする題材なので、描けなと思う生徒への抵抗感が少なかった。さらに、先に鉛筆での模写をしてからの取り組みなのでより抵抗感が少なかった。(西部)
- 模写をする時に「自分らしさ」を加えることで、生徒は題材を「自分のもの」「必要性を感じるもの」と意識できた。(西部)
- 額をつけることで、見栄えが良くなり、生徒の個性も活かせるものとなっていた。(西部)
- 表現と鑑賞が必然的・発展的に連動する授業デザインであり、名画の鑑賞と表現をどのように関連付けていくかを考えるためのよい提案であった。(西部)
- 生徒に教えたい作品(名画)は数多くあるが、どの作品を選び、どのように授業で扱っていくかを考えさせられた。(西部)

- 飲料缶のデザイン学習で、班になってのお互い作品のデザインについて、アドバイスし合う活動をもったが、商品のデザインは、購入対象者にどのように写っているのか知ることが大切なので、他人の意見を聞いて商品デザインを改善することはとても大切である。(東部)
- 村上先生の「授業力向上のための講義」は、美術は何のために学ぶのかという疑問に対して、描くことやつくること、見ることを通して「形を捉える視点」(アンテナ)を豊かにすることで感性が豊かになっていく。感性豊かな人間を育成していく教科なのだ理解了。(西部)
- 講演会では、中学校での美術は「苦手な科目ナンバー1」とも言われていることなど、中学生プロ棋士の藤井聡太さんのインタビューの新聞記事を例に挙げ、教師の「美術」のとらえ方、教科としての美術科の今後のあり方、美術で学ぶことは発達段階によって違うということなど、興味深い内容が多数紹介され会員の関心を得ていた。(西部)
- 鑑賞と制作の授業を関連づけて行うための有効な手段を学ぶことができた。(西部)
- 新学習指導要領をもとに説明が具体的で分かりやすかった。(西部)
- 美術という「教科の目標は何か」を考える機会となった。(西部)
- 必修教科としての美術を考える。国民の多くが身に付けなければならない知識や技能は何か。(西部)
- 日常で美術を生かすこと。よりよくものを選べる飾ることができる力、美しいと感じる心の育成。(西部)
- 生徒が自分なりの発想・構想、表現、鑑賞ができるための価値観を持たせるために、体験を通して考えさせる教科である。物を見て、感じ取り言葉(言語、色や形等)にする力や感じ取ったことを表現する力を育てる。(西部)
- 全体(テーマやイメージ)と部分(造形要素)のバランスを考えて授業を仕組む。森と木のバランス。学んだことを「知識」として、定着させることも大切。(西部)
- 2年生と3年生の発達段階の違いを意識して題材を考慮する。(西部)
- 3年生にどんな心を育み、卒業させたいかを意識して授業を仕組む。(西部)

## II

- 考えを広げる手段として、クラス全員が発表をシェアすることが大切なので拡大投影機などを利用するとよかった。(東部)
- 実物投影機を用いた生徒の発表について、下絵変更の理由を教師が問いかければよかったのではないかと。また、せっかく機器を準備されたのだから他の生徒の発表も聞きたかった。(東部)
- 4人班での発表の時間が短く、4人目の発表ができない班があった。時間設定をするなど手立てがあればよかった。(東部)
- 美術が得意な生徒、レベルの高い作品をつくれる生徒をさらに高めるための支援も大切である。(東部)
- 生徒の声を生かした授業を心掛ける。(東部)
- 導入で、見本の提示があったが、3年生なので構成美の要素を取れ入れたものを使ってもよかったのではないかと。(東部)
- 意見交換後の制作において、友達の意見を参考にしてアイディアスケッチを変えた生徒が少なく、もう少し早い段階での意見交換があってもよかったのではないかと。(東部)
- 終末で提示された作品の発表がより主題に迫るアイディアスケッチだったのかどうか。時間があつたので、もう一人くらい発表させる場面があってもよかったのではないかと。(東部)
- 個別指導が必要な生徒への手立てをどのように配慮してあつたのか。(東部)
- 1時間の中で盛りだくさんにせず、事前に説明したらよいことは前時に行い、生徒の活動を中心にするとうよかった。(東部)
- “対話による深い学び”を日頃から積み重ねていく必要がある。(東部)
- 造形的要素を意識した助言、自分の作品を見直し修正したときの思いを引き出す手立てが必要だ。(東部)
- 指導主事先生の助言が、5教科中心の「学力向上」と結び付けられており趣旨が分かりづらかった。県教委の伝達でなく、大会母体が中教研なので、今回の授業に関するよりよい授業展開の例や自分の経験などを具体的に伝えていただけたらよかった。(東部)
- 若い先生を褒めて育ててほしい。今後、若い先生が、もっと増えると思われるので、美術科らしく元気の出るアドバイスをお願いしたい。(東部)
- 今回の授業実践は、本年度の研究主題「表現と鑑賞が相互に関連する授業実践」や今回の授業の視点「表現と鑑賞を効果的に関連させる指導の工夫」という観点から考えると鑑賞から表現へのつながりがあまり直接的でない感じがした。相互に関連する授業実践というには広範囲過ぎると感じた。(西部)
- 指導助言では、「授業では振り返りとしてこれまでの制作10時間の振り返りをさせていたが、授業としての振り返りというのは、この1時間でどんなことを学んだのかということが大切」との指摘があつた。振り返りのさせ方など見直す必要がある。(西部)
- 小さな作品は、授業全体で作品の細かな表現の情報を共有しにくい。視聴覚教材を用い、拡大して提示すればよかった。(西部)
- 時間をかけた題材のまとめとして、板書がもうひとつ工夫あつてもよい。完成の感動は相互鑑賞で味わえたと思うが、最初に鑑賞した作品群がもっと黒板いっぱいあつて、それを一目見ることで「こんなに学習したんだ」という達成感が感じられるような板書を工夫したい。(西部)
- 表現と鑑賞を効果的に関連させる指導の工夫あり方の研究を進める。(西部)
- 研究発表では、他郡市の新しい取組を詳しく聞くことができとても参考になった。(パワーポイントでの説明が分かりやすかった)資料があればよい。(東部)
- 研究協議では、班単位でのKJ法を使っての話し合いと話し合い内容の発表・共有ができたので、大変効率的に授業を振り返ることができた。(東部)

- グループ協議の方法はよいが発表に終始している。オープンエンドではなく、深まりのある協議会の持ち方を考えられるとよい。(東部)
- グループ毎の討議は意見がたくさん出てよいが、発表を一部にするか時間を決めて進めたらよい。(東部)
- 協議会では、もう少し研究主題に迫るよう進められればよかった。(西部)

### III 特になし

### IV

- 同会場の技術科の先生が間違っ美術部会の駐車場に来られる等、やや混乱があった。校門や近隣交差点での誘導が必要だった。部会同士で打ち合わせできればよかった。(西部)
- 指導案の展開をもとにした付箋を利用した話し合いが効果的だった。(東部)
- 授業者の自評と授業者への質問の時間をもう少しとって欲しかった。(東部)
- グループの発表を全て行わず、選抜での発表をしたらよいのではないか。意見の重なりも少なく、時間短縮にもなる。(東部)
- グループによって、話し合いの視点が随分違うことが分かった。それぞれの発表時間を確保し、意見交換等できればさらに研修が深まるのではないか。(東部)
- 短い時間の中での研修会なので、欲張らずに的を絞った研修会にしたらよい。勤務時間内に終わるよう配慮して欲しい。(東部)
- 協議会では活発で深い論議がなされた。ただ、若い先生も増えているので発言できる機会も増やしたい。東部で行っているように、グループ討議形式をとり入れてもよいのではないか。(西部)
- 部長から、前日の西部地区での授業力向上のためのアドバイザー講義、村上尚徳環太平洋大学教授の要点伝達があったのは、新学習指導要領で押さえていかなければならないことを一段と早く知ることができたので大変有意義だった。(西部)
- △隔年でなく、2日にわたっての、東西両部会でのアドバイザー事業を希望する。(西部)

### V

- 魚津地区では、教師が多くクラスを一人で担当しなければいけないため、個別指導が必要な生徒に対する手立て、題材、評価の仕方にも工夫が必要である。(東部)
- △郡市の部員数が減っているので、研究大会の事前研究は中新川地区と滑川地区と合同(同日開催)で行うことを強く要望したい。(東部)

## <保健体育部会>

### I

- 研究授業において、体育の授業の模範となるような授業規律を見ることができた。(下新川)
- ペア学習について、励まし合い高め合える温かい人間関係ができており、それを構築していくための手立てや声かけを検討することができた。(下新川)
- 陸上競技(長距離走)という、苦手な生徒や意欲的でない生徒がでやすい単元について、生徒自身が目標をもち、練習の方法を選択・実践して課題解決に取り組ませることで、一人一人が主体的に取り組んでいる姿を見ることができた。(下新川)
- 講義において、**新学習指導要領の趣旨に基づいた、これからの体育授業の在り方について学ぶことができた。(下新川)**
- ペアに腕時計が配布されていたことで、各々が活動しやすかった。(黒部市)
- 苦手な生徒に対する声掛けや励ましが、ペア以外からも大きな声でかけられていた。(黒部市)
- ペアに見てほしいポイントや声をかけてほしいタイミングを明確に告げることで、走者と支援者がお互いに活動しやすく、ペア学習が深まっていた。(黒部市)
- 授業規律が整っていた。(黒部市)
- 生徒が主体的に長距離走の練習方法を考え取り組んでいた。(中新川)
- 当日は気温の低い中での屋外での授業であったが、十分に運動量が確保され、生徒達は汗をかいていた。(中新川)
- 佐藤先生の講義では**新学習指導要領やICT機器の活用について学ぶことができた。(中新川)**
- 技能レベル別のペア編成で、苦手な生徒も積極的に活動できていた。(魚津)
- 多くのウォーミングアップ方法を提示していたためか、運動量が確保できていた。(魚津)
- 放送でタイムを流しながら計測することで、目標を意識しながら活動することができていた。(魚津)
- 腕時計のストップウォッチはいいアイデアであった。(魚津)
- 生徒一人に教師一人とあらかじめ注目して観察する生徒が割り当てられていたためグループごとに違った活動をする際、観察しやすく生徒の思考の道筋を考えやすかった。(滑川)
- 雨天の授業提案(富山)
  - ・安全面に配慮したバットを使わない室内授業はルールを覚えるのにも効果的であった。
  - ・体育科のチームワーク  
教師の負担は増えるが、空いている教諭が授業の様子をビデオ撮りすることで次時の授業に生かすことができる。
  - ・ICT機器が効果的に活用されていた。
- 本時の課題に対し、前時の授業をICT機器で振り返る時に映像に実線やマークを入れながらスローでリプレイすることでリアルにそして分かりやすく授業を進めることができていた。(富山)
- 指導案検討(3部会)
  - ・3部会(ICT、指導と評価、学び合い)に分かれた8月部会では、各部会の視点で指導案検討を行い、多様な考えを集結し、生徒の実態に応じた方法を考えることができた。(富山)
- 本時のねらい「互いの違いやよさを認め合い、教え合って活動することができる」について、生徒同士で話し合いや声かけがあり、リーダーを中心にとっても温かい雰囲気の中でグループ学習ができていた授業であった。教師が3年間を見通して、生徒に合った目標を段階的に持たせることで、ゴールがはっきりするため、自主性が育つと感じた。(射水市)
- 評価について、毎時間全ての観点で評価するのではなく、今回のように「知識・理解」と「学びに向かう力・人間性」を一定のスパンの中で指導と評価を行うことがよかった。(射水市)
- タブレットの使用は、お互いにコミュニケーションをとることができ、ゲーム中にアドバイスをし合うなど仲間との関わりを深めることができた。(射水市)**
- 楽しい雰囲気の中で行われ、運動量も豊富であった。(高岡市)
- ICT機器(タブレット)を使った活動では、スパイクの動きを生徒に理解させることができ、効果的であった。(各班に1台のタブレット)(高岡市)
- ICT機器の使用は生徒の必要感に応じて使えばよく、生徒の学びが深まる使い方が必要である。(高岡市)
- 教師と生徒の好ましい人間関係が授業の中でよく見られた。日々の実践の積み重ねが伺える授業だった。(高岡市)**
- タブレットでスパイク練習の様子を撮影し、その直後にフォームの確認をする時間を設けたことで、ミニゲームでも積極的に実践している生徒が多かった。(氷見市)
- ミニゲームのルールの工夫により、チーム全員が自分の役割を果たしていた。(氷見市)
- スピードに乗ったバトンパスをする技術を身に付けるためのポイントを見付け、課題に応じた練習ができる学習過程の工夫。(小矢部市)
- 1学年では、次走者がタイミングを合わせて助走し、前走者が合図してバトンを渡すことができる。本学年(2年)では、スピードを落とさずにバトンをつなぐことができる。来年(3年)では、身に付けた技能を生かして競争を楽しむ。以上、3年間で段階を追って短距離・リレーの技術を身に付け、競技を楽しむことができるようにする。(小矢部市)
- オリンピックのリレーの映像で見せ、よいバトンパスを考える。(小矢部市)
- 自分たちのバトンパスの映像を見て、自分たちの課題を話し合う。(小矢部市)

- 4人グループで、バトンパスと計時やタブレット端末による動画撮影をして、うまくいった点や問題点を教え合う。(小矢部市)
- バトンパスのポイントを踏まえた練習をしながらタイム測定し、評価しながら学習目標達成を狙う。(小矢部市)
- バトンパスの技能向上に特化した授業提案がなされた。
  - ・何度も練習できるようテークオーバーゾーン内のバトンパスタイムを測定し、タイムを縮めていくための方法を工夫する授業であった。(砺波市)
  - ・リオオリンピックの映像資料やタブレットも準備されており、自分たちのレベルに応じた技能の習得ができるよう工夫されていた。(砺波市)
  - ・よく練られた指導案である。1～3年までの指導計画も書かれており、3年間を見据えて構成がされている。(南砺市)
- 学習カードが、課題に迫るための学習の流れが分かり、変化が分かるカードであった。**
- ICT機器が目的をもって使われていた。タブレットを必要に応じて自由に活用したり、DVDの映像を生かしたりして、課題に迫っている授業であった。(南砺市)
- 3年間を見通した指導計画が、各学年毎の系統性が示されていてよい。(南砺市)

## II

- 専門的な知識をどこまで組み込むか、感覚で話しているペアもいた。速い生徒のレースパターンを提示する等の知識の指導があってもよかったと思う。(黒部市)
- △学習カードで通過タイムをグラフ化するなど、視覚化するとアドバイスのポイントもわかりやすい。(黒部市)
- △学習カードを記入する際には、ファイルかボードがあった方がよい。(黒部市)
- △フォームの指導を入れていくとすれば、タブレット等のICT活用もできる。(黒部市)
- △ペア学習においては声掛けの具体的な方法を例示するとよいという意見があった。(中新川)
- 当日、グラウンド状況が悪かったため、当初準備していた学習課題と学習のながれの掲示を使えていなかった。学習課題と学習のながれは目で確認したほうがよいという指導助言があった。(中新川)
- 目標が達成できなかった生徒へ、教師が具体的な指示を与えてあげる必要があった。(魚津)
- 話し合い活動は何を話し合えばよいのかなど、話し合う意味を理解させることが大切である。(魚津)
- △タイムを上げる＝ポイントが上がる、などの達成感もてる工夫があるとよい。
- △自己のタイムをグラフ化して、変化をみるなどすると意欲が高まる。
- △ファイル等を持参させ、屋外でも学習カードに記入しやすくする。ファイル等で綴じていれば、風や雨にも対応できる。(魚津)
- △目標タイム設定のポイントを明確にしておく必要がある。(魚津)
- 指導案の検討、そして指導主事の意見等がしっかりと分かり、十分な検討の計画の時間があればよかった。**(滑川)
- 見に来られた先生方が生徒に話しかけておられる場面で、授業者の先生の指示を行き渡らせる妨げになっていた時もあった。(滑川)
- 動画のリプレイ(形態の工夫)
  - ・映像がすべての生徒に見えやすい形態の工夫が必要であった。
  - ・時間配分
    - 雨天ということで運動量確保の観点から4カ所を使つての展開となった。そのため、時間配分を乱し、まとめて時間を割くことができなかった。
  - ・声のかけ方(習熟の変容の気付きについて)
    - 体育館と見学者の多さにより、指導者が全体を掌握することが難しかった。次に展開に移れる機会を逸し、同じ練習を長く続けてしまった。(富山)
- タブレットの活用は有効であったが、話し合い活動や教え合い活動が、さらに主体的で深まりのある対話的な学びをするためには、撮影の場所、見る時のポイントを明確にすること、見つけた個人課題の練習方法を掲示するなど、工夫する必要性を感じた。(射水市)
- △全体計画の立て方について、国立教育研究所から出ている評価基準の作成、評価方法等の工夫・改善のための参考資料を参考に、時間ごとのねらい、学習活動、評価計画を書き込み、実践に生かせるようにする必要がある。そして、授業のねらいと課題が一貫性をもつようにして、生徒の意識に合った生徒主体の授業づくりを研修していきたい。(射水市)
- ICT機器の活用は、自分たちの動きをフィードバックさせるためにも必要であるが、生徒が見る必要性や視点などが曖昧であったと思われる。(高岡市)
- タブレットはもっと効果的な使用方法があると思われる。**(高岡市)
- 本時の教師の動きに工夫が必要である。(高岡市)
- 指導案の記載方法(高岡市)
- △スパイク練習後のタブレットを見る時間を減らし、運動量を確保するために、スパイク練習中に個々でタブレットを確認し、また練習に参加するというシステムにするとよい。(高岡市)
- バトンパスの技能向上を目的としていたため、トラックを周回する内容ではなかった。※他のグループと競い合うことがない。(砺波市)
- カーブでのバトンパスがないため、「どちらの手で受け取る方がよいか」「走順の工夫」などの学習がないこと。(砺波市)

- 利得距離について、理解している生徒と理解できていない生徒がいた。内容を欲張りすぎであった。(南砺市)
- 授業の終わりに今日の学習した成果を試す時間があればよかった。(南砺市)
- △小5、6年のねらいとのつながりを意識して取り組むことが大切である。(南砺市)
- △感性、コミュニケーションをみがきながら対話のある授業にしていくことで思考が深まる。それが生涯にわたって運動に親しむことにつながる。(南砺市)

### III

- 大会前の地区研修会が二学期の始業式と重なったため、もっと早めて欲しかった。(中新川)
- 資料事前配布はいいと思うが、その為に、指導案の検討、作成が早くなり、授業をする当事者や協力する郡市の部員がイメージをつかめないうまま指導案検討となったり中途半端になったりしている感があった。(滑川)
- 会場郡市、会場校の決定 (富山)
  - ・中堅教員が少ないため、若手教員にお願いしている。会場校ではなく授業者(=会場校)で決定せざるを得ない。
  - ・資料の編集及び事前研修会  
3部会(ICT、指導と評価、学び合い)に分かれて研修を続けてきた。8月部会では、各部会の視点で指導案検討を行い、多様な考えを集結し、生徒の実態に応じた方法を考えることができた。
  - ・幹事と授業者で3回、授業者や部会責任者が打合せを行っているが、富山市全体で授業をするというスタンスは、若い授業者にとって気持ちの面で負担感の軽減につながったと思う。
- 指導案配布は文書交換を使えないため、駅伝の監督会議を用いた。(富山)
- 指導案の検討はなかなか時間がとれない、担当の市にお任せになってしまう。トライなどを行い、授業者によりよいアドバイスを行えるようにしたい。(高岡市)
- 指導案の検討会を夏期休業中に行ったため、十分時間をかけて検討することができた。(砺波市)
- 夏休みに2回の指導案検討会を実施したので、より深めることができた。また忙しい9月に指導案検討会を行わずにすんだ。(南砺市)

### IV

- 佐藤先生の講義をもっと聴きたかった。(中新川)
- 研究協議では、ポイントを絞ってのグループ協議は○。指導主事は話の内容が15分あったのに多すぎて中途半端でした。内容を精選してほしい。(滑川)
- 講義の会場が整っていて佐藤先生の講義も素晴らしい内容だが、PC不具合と時間が短く残念。(滑川)
- △講義等でICTの活用などの実技講習があっても良いのでは。(滑川)
- ICT活用の実践例に加え、実際にどのように使うのかや効果的なやり方を実技講習として学べる時間がほしかった。(滑川)
- 会場校の負担軽減を考えるが、幹事会では駐車場の誘導・整理や受付が限度である。会場校に会場設定等をしていただき、大変ありがたかった。(富山)
- 研究発表については8月、10月の部会協議2を各校のICT機器活用発表にしたことで負担が軽減された。(富山)
- 部会協議1に多くの時間を割きその後指導主事の指導講話をいただいた。
- 今回の佐藤先生の講義は、タブレットの具体的な活用の仕方や話し合いを活発にさせる具体的な手立て、世界の体育の授業についても教えていただき、体育科教員の視野を広めることができた。(射水市)
- アドバイザーが配置された場合、研究協議①、研究協議②とも、やや時間不足になってしまう。よりよい研修会にするためにも、時間の配分等を工夫したい。(高岡市)
- △アドバイザーにも指導案の事前検討をお願いできればと思う。(高岡市)
- △アドバイザーにも、当日の授業についての指導助言を多くいただきたい。(高岡市)

### V

- 82名の部員が在籍していることで、授業会場が先生方の姿でいっぱいとなる。時には授業の邪魔になることもあり、大会当日は見学者の場所を指定し、役割も明確にした。授業提案を一人一人が自分のことのように考えることで、富山市の保健体育部会の研究レベルも向上していくと考えられる。(富山市)
- △各郡市で授業中に観察するグループを割り振られたので、協議会①で郡市ごとに話し合いの時間を設けて、意見を共有し合う時間があれば、さらに深まったのではないかと。(氷見市)
- 協議会で実技研修等を取り入れるのも大変有効である(授業で取り扱った種目やタブレットの活用方法等)(氷見市)

## <技術・家庭(技術)部会>

### I

#### ○ハイブリッドパソコン等ICTの活用（東部）

△工具の安全利用（東部）

○対話的な学習（東部）

#### ○生徒の主体的な取組（東部）

○教材開発（西部）

○生徒の意欲を引き出す題材（西部）

○グループ学習でのそれぞれの役割（西部）

○発表は、発表者の取組だけでなく発表者の地区の取組であった。多くの例が分かり参考になった。（西部）

○生徒が試行錯誤できる環境（西部）

△グループ学習の評価（西部）

### II

△工具の片付け方（東部）

△課題設定（東部）

△指導内容（東部）

△生徒が考えた「最適解」を今後の製作にどのように生かすかの示し方（東部）

#### △授業を終えての感想・自己評価等の「深い学び」へのつなぎ方（西部）

△高校、高専、大学との連携・協力の推進（西部）

●プログラム利用の目的と生活との関連の明確化（西部）

### III

●連絡の伝達の仕方（東部）

△郡市間の協力体制（東部）

●教科部会や幹事会の欠席が多い。支援体制の確立（東部）

○授業会場や協議会場確認のため会場校に事前に集まることは有意義である。（西部）

△全員が集まらなくても決められる会合がある。（西部）

### IV

●活発な意見（東部）

●教員数の減少、高齢化、意見を述べる教員の偏り。協議会での司会の進め方検討（西部）

### V

△「ものづくり題材集」の電子データ共有（東部）

△「ものづくり題材集」のテーマを絞る時期ではないか（東部）

△**郡市部長が各郡市1名だが、部会を構成する教師減少のため、複数の郡市から部長1名を選出することはできないか。（新川）**

△各群市の研究の分担をすすめる。（東部）

△発表の順、枠の検討（西部）

△教科の教員減のため、市中教研の組織の連携、研究大会の開催回数・方法の検討（氷見）

△「ものづくり題材集」の在り方（西部）

## <技術・家庭(家庭)部会>

### I

- 知識構成型ジグソー学習は、課題意識の持たせ方が工夫されており、2種類の話合いが効果的だった。(東部)
- 自分とは異なる家族構成について考えることで、家族への思いやりやまなざしが表れ、住まいの工夫に結びつけることができた。また、それが可能な班編成がされていた。(東部)
- 夏休みの課題からの流れがあり、各家庭で実践している工夫が、授業の中で活用されていた。(東部)
- 付箋を用いて話合い、全体で共有していく過程がよかった。今後の生活にいかにかすかを、生徒がよく考えていた。(東部)
- 生徒たちがしっかり自分の立場・視点をもって話合いにのぞんでいた。(東部)
- 教材、ICTの活用については、鳥瞰図が効果的であった。生徒への温かい声かけがあり、生徒の意欲を高めていた。(東部)
- ジグソー法を行うことで、自分の意見をもって班で話合い、他の人の意見を聞いてさらに自分の意見を深める姿があり効果的だった。立場が明確だったこともよかった。(東部)
- 住空間を2班ずつに分けた場面では、自分の班で出た意見と他の班の違いを意欲的に知ろうとする姿が見られた。(東部)
- 具体的な授業実践の例を交えながら話され、理解しやすかったし、新学習指導要領についての理解が深まった。(東部)
- 新学習指導要領を研究授業の中でどのように考えるのか説明されとても分かりやすかった。(東部)
- 講義の中で授業紹介をされたのがとてもよかった。「素材」「調理法」等の視点からの授業構成が素晴らしかった。高校の福祉の取組もよかった。参考になった。(東部)
- アドバイザーの講義は、新学習指導要領のポイントを具体例を示しながら話していただけて、大変参考になった。(東部)
- 調理実習の授業は初めてだったので、多くの学びや気づきがあり、生徒の取組の様子や生徒の生き生きとした姿を見ることができた。(西部)
- 調理実習は生徒が楽しみにしている授業だが、準備や指示の仕方に課題がある。本時はそれらの課題をクリアできる手立てを示してくれるものだった。(西部)
- イラストカードの準備など教師の細やかな配慮があったため、生徒自身でスムーズに実習が進められており、30分でハンバーグが完成していた。(西部)
- カードがあることで、実習中、教師は言葉がけと支援に専念することができていた。(西部)
- 調理だけでなく、片付けの手順も写真で視覚的に示されており、生徒が自主的に活動できていた。視覚的な資料が有効であることが分かる授業だった。(西部)
- 授業後の説明で、ムニエル、野菜スープ、ハンバーグの順に調理実習が行われていたと分かり、計画的に生徒が成長できるような手立てがされていることが分かった。また、どの実習にも手順を分かりやすく説明したカードが準備されていて、カードを見ながら自ら実習に取り組む姿勢が培われてきていると感じた。(西部)
- 生徒も教師もWin Winになる実験・実習を開発する大きなヒントになった。(西部)
- 授業の視点が明確に示されていたので、話合いの視点も明確になったのがよかった。(西部)
- 今回、授業者から授業参観での視点をプリントで示していただき、授業を効果的に参観することができた。今後もオリエンテーションがない場合など、このような資料(プリント)を示してもらえると、授業を見る上でのポイントが分かりやすくなってよいと思う。(西部)
- これからの時代に求められる能力と、そのためにどうしたらよいか分かる講義だった。
- 新学習指導要領についての話が聞けてよかった。今後どのように考えて授業をすればよいか分かった。
- ストーリー性のある授業について具体的な話を聞くことができ、理解を深めることができた。
- 新指導要領の改訂に沿って、生徒の思考を繋ぐ授業の構築について、分かりやすく講義していただいた。
- アドバイザーの講演は、実践事例があつてよかった。これからも、いろんな実践事例を知って参考にしたいと思う。
- アドバイザーの講演を聞いて、新学習指導要領の実施に向けて考えていかなければならないと感じた。
- 学びのストーリー性について、資料を基に説明され、題材の設定や学びの構造図をつくることの大切さを感じたので、もっと多くの実践事例を知りたいと思った。

### II

- 知識構成型ジグソー学習については、目的を考えて、もっと効果的に取り入れるべきだ。もっと多様な力をつけられるのではないか。(東部)
- 付箋で色分けしたものをさらに活用し、全体を俯瞰して対象者と空間について考察する時間があってもよかったのではないか。(東部)
- ICTの活用の仕方として、各家庭の工夫を画像として取り込んでおくことができたのではないか。(東部)

- まとめ方として、生徒の考えや発表した内容を生かす工夫と一般化が必要ではないか。(東部)
- 後半時間が不足していたので、前半のジグソー学習の時間を短くするなど時間配分に工夫があればよかった。(東部)
- 実物投影機で生徒の宿題を見せるときに、先生ではなく、生徒に発表させる。時間がない場合は、タブレットに入れておき先生が説明する。画面が小さくポイントが分かりにくかったので工夫がほしい。(東部)
- 生徒の発表のさせ方にトレーニングが必要。(東部)
- 話合いや学んだことを振り返る時間がなくならないように、前半をスムーズに進められるよう常に意識して授業を行うことが大切である。(東部)
- 調理実習はどの場面をどのように評価するかが大変難しい。研究協議で、評価について話し合えばよかった。(西部)
- 協議会での話合いがもう少し盛り上がるといい。全体を分担して観察するのではなく、数名の生徒を皆で観察し、その様子からどんな手だてが有効だったかを話し合うという方法もある。(西部)
- 授業前にオリエンテーションがあると視点が広がったのではないかと思う。(西部)
- 生徒に配付する資料を授業前にいただけるとありがたかった。(西部)
- 実習後、自分の調理結果を振り返り、考察するような授業があってもよいのかと思った。(西部)
- △生徒が自主的に活動できる工夫がいたるところにあり、教師が指示を出す場面はほとんどなかった。だからこそ、生徒の行動をしっかりと観察し、次の授業に生かしていくとよいと思う。(西部)

### III

- 会場がきれいで、整備されていた。学校への案内看板が分かりやすかった。
- 資料が届くのが遅かった。
- △会場が遠いので、開始時間を遅らせてほしい。
- 会場校では、今大会のために長机を購入していただいたそうで、感謝しています。

### IV

- オリエンテーションをしないことは、時間短縮になるが、必要性もあるのではないか。(東部)
- 中・滑部会はあまりお手伝いができず、申し訳なく思っています。(東部)
- 新川地区は、技術の先生が家庭科を教えておられ、家庭科教員のいない学校や講師の先生の学校が多いので、少ない部員で分担を行った。(東部)
- △今後もいろいろな先生方の講義があるとうれしい。(東部)
- △協議2の終了時刻を勤務時間の終わる時間に合わせて4時30分にするとうい。(東部)
- 今後も授業力向上のためのアドバイザー講義を実施して欲しい。(西部)
- 日程も無駄のない時間配分で良かった。(西部)
- 部員の協力により、研究大会が進められていてよかったと思う。また、責任者や授業者は大変だったと思うので、お礼を言いたい。(西部)

### V

- △家庭科部会は、熱心な部会である。それぞれの個性を生かして、ジグソー学習のように組み合わせ、よりよい部会にしてほしい(東部)。
- △昨年度定年退職された先生の代わりの新規採用の先生がいない。中新川郡の大規模校2校の先生が講師である。部会の今後の発展を考えるとバランスのよい採用・配置をお願いしたい。(東部)
- △技術の先生が家庭科を教えるのをやめてほしい。生活に密着する大切な教科である家庭科は、本日の研究会等で学ぶことができ、専門的に教えることのできる家庭科部員が教えられるよう教員を配置してほしい。(東部)
- △Wi-Fiが使えず、個人のものを使用しているので改善してほしい。(東部)
- △新川地区は講師の先生が多く、次の授業者を決めることが難しくなる可能性がある。(東部)
- 一校に一人しかいない教科なので、研究会は大変参考になる。研究授業は普段の授業に取り入れやすい内容で、参考になった。(西部)
- △1週間に1回、もしくは2週間に1回しかない貴重な授業をよりよいものにするために、情報交換の場がもっとあったらいいと思う。各校1人で家庭科を教えており、他の学校ではどのような授業が行われているか知る機会は少ない。よりよいやり方もたくさんあると思うので、そのような情報交換の場があったよい。特に、実習(食に限らず、衣服や住居等)は、同じ市内の先生同士でも何を行っているか分からないことが多いので、有意義な時間になると思う。(西部)
- △部員数が少ない部会なので、負担が重くならないように、今回のように「講義」を入れていけばよいと思う。(西部)
- △部員数の減少と新規採用の先生がいないことにより、同じ先生が何度も研究授業を行わなければならない状況になっている。負担が大きく、改善方法を考えなければならない。(西部)
- △今後も部員間で、情報を共有し、また、アドバイスをいただきながら授業力向上に努めたい。(西部)

## <英語部会>

### I

- ICTの活用が、生徒の学習への意欲を高めることに役立っていた。視覚に訴えることで、生徒達は興味を持って活動に取り組んでいた。(新川)
- 話すこと中心の授業のため、書くことが苦手な生徒も生きる授業になっていた。文法的な間違いはすぐその場で訂正したり、口頭ですぐに生徒が思いついた英語を教えることができたことがよかった。文法→音声で指導することが多いが、逆も効果的だと思った。(新川)
- 今まで書く作業を大切にする授業構成を意識していたので、話すことを主とした授業展開は新鮮で学ぶことが多かった。(新川)
- 「話すこと」を主で行われた授業実践では、細かい文法説明は後回しにし、活用することで生徒は間違いを恐れずに発話していた。その後の応用的な活動でも、ほとんどの生徒が即興で会話していた。(新川)
- 英語で指示をしていたので、生徒達も必死に理解しようとしていた。内容もGood!等肯定的な言葉が多かった。また、身近な先生を題材にすることで、生徒達は夢中になって英語を聞いていたように思う。(新川)
- 日頃の学習活動の積み重ねが、対教師や生徒同士の人間関係を育み、温かい雰囲気でも活動できていた。(新川)
- CAN-DOリストを意識した授業の内容で、部会協議②での研修にも役だった、活用に向けてCAN-DOリストへの理解が深まった。(新川)
- ただ教科書を使って教えるのではなく、できるようになるべきことを知ることで、授業案を立てやすいという意見もあり、それぞれの実践例をお互いに共有していくことの大切さも実感しました。(新川)
- 生徒が興味を持って「質問したい」と感じる場面設定がされていた。場面設定の重要性を再確認した。(新川)
- 4技能のどこを焦点化して授業をするのか明確にすることの大切さを感じた。(新川)
- 発表はよくまとめられており、非常によかった。これから取り組むことが分かりやすく、今後やってみようという意識が高まった。(新川)
- 部会協議①では、グループ討議を取り入れた。授業を見る際に、指導案から「視点」を抜粋し、特にその点に留意しながら2色の付箋に気付いた点を書いていただいたことで、話合いの論点が明確になった。また、事後アンケートではCAN-DOリストの活用に関する実践例の小グループでの話合いがとてもよかったとの感想が多かったため、次年度も継続したい。いずれも貴重な指導技術交換の機会になった。(富山)
- 来年度は研究発表のある年度だが、昨年度は、帯学習の実践やパフォーマンス評価等新しい視点の発表が好評だったので、来年度も実践に役立つ発表内容になることが期待される。(富山)
- 前年度の反省を生かして指導案検討会を早期(7月)に開始し、指導主事の指導も繰り返しいただけたことが大変ありがたかった。(富山)
- アドバイザー講義は中身が大変濃いものであったが、具体的で分かりやすかった。(富山)
- 身近な話題を学習課題として設定したことが、生徒の関心・意欲を高めることに繋がっていた。また、ペアやグループ等学習形態を工夫したり、スモールステップで繰り返し音読練習を行ったりしたことは、本時のねらいを達成するうえで効果的であった。(高岡)
- 協議会では視点を設けたグループ協議を取り入れたことで、各会員が共通の意識を持ち、活発に意見交換を行うことができた。また、協議会は短時間で行われるため、事前にグループや司会者、発表者を決めておいたことは効率的であった。(高岡)
- 講演内容がとてもよかった。生徒にどんな力を付けるために、授業でどうしていかなければならないかがよく分かった(高岡)
- 教科書を使った読むことに焦点を当てた授業は新鮮であった。来年度以降も、どちらか教科書を扱った授業ができないか。(高岡)
- 今年度は小矢部市が会場であることから、地区の事前協議会の前に小矢部市の教員全員で指導案の検討会を行った。活発な議論があり、授業者にのみ委ねるのではなく、市内の英語教員が授業のイメージを共有できるよい機会となった。このような話合いの結果、研究大会での学びを日頃の授業でも生かすことができ、有意義な検討会になったと思う。(砺波)
- インフォメーションギャップを用いることで、対話をする必要感が高まり、生徒は意欲的に活動していた。(砺波)
- ワークシートにモデル文が載っておらず、日本語でのメモをもとに対話する活動が行われた。生徒にこれから必要とされる、即興的にその場で話す力を付けさせることを意識した活動であった。(砺波)
- 部会協議では、小グループでの話合いを進めることにより、活発に協議が行われた。話合いの時間ももっとあれば更に考えが深まる。(砺波)
- 研究発表では、小中連携や「話すこと」「聞くこと」に関する南砺市での取組が紹介された。小中の学習内容を一覧にした系統図を市全体で共有しているなど参考にしたい取組が多く紹介された。また、発表を聞くだけでなく、各校で工夫している取組等について話し合う時間も設けられ、他校で行われた効果的な活動について知ることができた。(砺波)
- ペア活動は生徒が興味を持てる内容であった。また、活動に入る前に、ALTとJTEで例を示したことにより、生徒は理解して練習できた。(砺波)

## II

- △生徒の英語使用量を増やすために、教師の説明を簡潔にしたらよい。ICT教材の準備製作に時間がかからないように気を付けたい。(新川)
- △ICT機器を使った授業の長所と短所について知りたい。(新川)
- △ICTをうまく使用できない方もいらっしゃると思うので、活用方法の講習を入れても面白いのではないかと。(新川)
- ICTの活用はよいが、教師の視線が生徒にではなく、タブレットやモニターにいてしまうのは残念。その采配が難しい。(新川)
  - CAN-DOリストについてグループ協議をしたが、グループによっては作成していない学校ばかり集まり、話しが深まらなかった。グループ分けの工夫が必要だと思った。(新川)
  - 全体で発表するときに分かる生徒ばかりが手を上げていた感じがした。分からない生徒も参加しやすいよう配慮が必要。隣と考えを言い合う活動も取り入れたらよかった。(新川)
  - CAN-DOリストを活用しようという意識はあるが、十分生かされていない。生徒の英語力を向上させるために、どのようにリストを活用するか研究が必要である。(新川)
  - CAN-DOリストの活用について、今ひとつ理解できていない部員もいたようなので、さらなる研修の場を設けたい。参加者がもっと実践してから参加するなど、主体的な研究大会にしていきたい。(新川)
  - 部会協議①では、一問一答形式ではなく、グループ協議を行った後、代表者がまとめを話す形式の方がいろいろな意見が出てよかったと思う。(新川)
  - △CAN-DOリストについては、定着するまで今後も全体で取り組んでいくべき。発表を聞いて活用のハードルが下がったように思う。共通理解を図りながら進めていきたい。(新川)
  - 教室に入れずに、外から参観されている方もいらっしゃったので、使用教室の配慮が必要ではないかと。(新川)
  - もう少しグループで話し合う時間が必要だと感じた。(新川)
  - 発表については現場での疑問に答える形が望ましい。(新川)
  - モニターで指示を視覚化していたので、日本語を経由せずに英語だけでも生徒を動かすことができたのではないかと。(新川)
  - △「英語を多く使用する、させる授業」を展開する技術を研修し、研究授業でも実践したい。また、小中連携に関する話題も、これまでに増して取り入れるべきだと感じる。(富山)
  - △協議会の持ち方について、時間との兼ね合いもありますが、実り多い研究協議になるよう更なる工夫を重ねていく必要があると感じました。(高岡)
  - 授業者は十分に準備して授業に臨んでいるが、授業後の協議会の時間が短いため、協議がなかなか深まらないことが多い。協議の仕方について、事前に検討しておくことで授業者、参観者両者にとって有意義なものになると思われる。(高岡)
  - 研究発表は、高岡市、射水市、氷見市で当番制にしているが、授業力向上アドバイザーの講演会が入るとずれるときがある。今後はどのような順番にして進めていくか考慮する必要がある。(高岡)
  - △協議会で使う付箋の色は赤系と青系の方が分かりやすい。(高岡)
  - 授業者に、授業に関する質問をする時間が欲しかった。(高岡)
  - △発表自体に重きを置きすぎると発表者の負担が大きくなってしまう。そこで今回は発表そのものに時間をかけるのではなく、資料をもとに各自が日常の取組について情報交換するようにした。その結果、情報交換の時間を十分取ることができたので、意見交換が活発に行われた。(砺波)
  - 英語でやりとりをして、有名人を当てる活動が行われたが、生徒によって興味ある有名人は異なる。生徒全員が同じように興味を持って取り組める活動にするために、先生やクラスメイトを当てる活動にすればよかったのではないかと。(砺波)
  - クラスルームイングリッシュの後に、日本語で補足を入れてしまうと、生徒が英語に注意を払わなくなってしまう。(砺波)
  - 活動に関する制約が多いと説明や理解に時間がかかってしまい、活動の時間が短くなる。活動はシンプルであるほどよいし、やり方は説明するのではなく、モデルを示すとよい。(砺波)
  - △英語で質問する必要性や、生徒が楽しく感じられるような活動モデルの示し方が必要。(砺波)
  - △授業は1単元で学習する。4領域のどれをその単元で扱うのかを考える必要がある。(砺波)
  - △CAN-DOリストは「作る」より「使う」ことが必要である。1年間の中で計画し、位置付ける。(砺波)

## III

- 事前に資料をもらっていたので、助かりました。(新川)
- スムーズに行くことができた。(富山)
- 会場都市が事前に決められているため、問題は無かった。(高岡)
- 段取りよく進めてくださり、ありがたかった。(高岡)
- 部会責任者に仕事が集中しており、大きな負担となっている。会計等分担できる仕事は分担するとよい。(砺波)
- 指導案検討がスムーズに進むよう、事前に指導案を検討者に送るとよいが、授業者の負担が大きくなる。(砺波)

#### IV

- 協議の時間がもっと欲しい。班の数が多くなるとその分発表に時間がかかるので、発表の仕方を変えたり、班の数を減らすなどして協議の時間をもう少し確保して欲しいと感じた。(新川)
- 部会協議の持ち方に工夫が必要。(新川)**
- 部会協議①の時間設定を長めにとったことがよかった。(富山)
- △2学年の授業が公開され、それぞれに工夫された提案授業でした。授業者を選ぶのは大変ですが、来年度以降も複数の学年で公開があればよいと思います。(高岡)
- 時間が短く、なかなか深い協議ができません。(高岡)
- アドバイザーの講義は充実していた。時間が短かったため、夏季休業の教育課程研修会と兼ねてじっくり聞いてもよいのではという意見もありました。(高岡)**
- 授業会場がよく分からなかったので、受付で大体の方向ぐらいは示してはどうか。(高岡)
- 協議会の司会と、指導助言者や来賓の誘導は担当者を別にした方がよいと感じた。(高岡)
- 焦点を絞って協議するよう事前に伝えていたが、やはり徹底せず協議が進んでしまった。(高岡)
- 当日、部会責任者は講師の誘導や案内があるので、他の運営委員で連携して当日の運営を進める必要がある。(砺波)**

#### V

- 富山市英語部会は100人以上であるため、授業研究には3クラス開催が望ましいが、対応できる学校が限られてくるため、将来的には複数会場等の対応が必要かもしれない。(富山)
- △今後もこのように中央からのアドバイザーを招いた講義を多く取り入れて欲しい。(高岡)

## <道徳部会>

### I

- 発問構成の工夫に焦点を当てて研究に取り組んできた。第2学年では、ねらいに明確に迫る中心発問について吟味を重ねてきた。本時では「鈴木さんは、4年間、どんな思いで、マネージャーを務めてきたのでしょうか」と設定した。鈴木さんの涙や決意の意味をしっかりと押さえ、背景にある思いを捉えることができた。第3学年では、中心発問に至るまでの段階で、入園させるときに規則を破ることと、姉弟を探している間、規則を破ってしまったこと等の心情を押さえた。このことにより、生徒はきまりを守ることの意義について考えることができるようになった。(西部)
- 第2学年では、心情円盤を活用することにより、生徒は前向きな感情への変化について視覚的に捉えることができた。今後の授業で活用できる工夫が見られ、参考になった。(西部)
- 授業の中で小グループにすることで、生徒が自分の考えを他の生徒と交流する機会をもてていた。また、付箋の活用は、意見交換を促すとともに、場面緘黙といった話すことに困難を抱える生徒にも配慮がされているという点でも大変参考になった。(西部)**
- 第3学年では導入でアンケート結果を提示するなど、工夫が見られた。終末では再度アンケート結果に返ることにした。このことにより、終末では、これまでの自分を振り返りながら考えることができるようになった。(西部)
- 研究発表資料の中に「資料分析」が入っていることがよかった。(西部)
- マトリックスシートを用いて、①資料分析と発問②表現活動の工夫③評価の工夫という視点を事前に参加者に伝えていたので、意識して参観することができた。マトリックスシートや付箋を用いた協議会は、参加者が多く限られた時間で話し合いを行う際に、様々な意見を集めることができ、有効であった。(西部)
- アドバイザーの横山利弘先生の講義はとてもためになった。道徳の教科化とは何か、教材分析、評価等について分かりやすく教えていただき、道徳教育研究の意欲が高められた。(西部)
- オリエンテーションが省略されたので、時間にゆとりができた。(東部)
- 付箋にメモするなどの作業が無かったので、かえって授業を自然体で落ち着いて参観でき、よかった。(東部)
- 教師が教材(資料)を的確に読み込むことで、価値に迫ることのできる発問設定や適切な問い返し発問が設定でき、考えを深めることができる。(東部)**
- 1年生の授業では、問い返し発問が適切で、十分に生徒の考えを引き出していた。また、生徒の発言だけで授業が進んでいた。普段の取組がうかがえてすばらしかった。(東部)
- 中心発問からねらいに迫ること、問い返しを工夫することの大切さを学んだ。(東部)
- 生徒の道徳的価値を引き出すような問い返し発問がたくさんあり、参考になった。問い返し発問により、生徒たちがより深く多面的に考えることができていた。(東部)
- 問い返しの発問によって、生徒は「自分のこと」として主題を考えていた。あえて書かせない時間をもつことで自分の言葉で話すことができると思った。(東部)
- 研究授業とその後の部会研修を通して、板書の使い方や効果的なワークシートの使い方等について研修することができた。去年の研修から参加しているが、「構造的」な板書というキーワードが定着してきているように感じられる。ワークシートの活用法に関しても数年前とは違う形式のものが多く見られるようになり、今後の主流になっていくことが分かった。道徳部会として共通認識をもつようになり、各校での道徳研修においても広めることができると思う。(東部)
- 温かく認め合う雰囲気づくりが普段から行われていることが感じられ、生徒たちが多様な意見を出しやすい土壌があった。(東部)**
- 教師がいつも生徒の発言を受容的に受け止める授業を積み重ねることで、生徒に聞く姿勢が育ち、息の長い発言も最後まできちんと聞こうとする姿勢が育つ。そのため、生徒が安心して発言できる雰囲気が生まれる。(東部)**
- 「ほっちゃれ」の実際の映像を見せたことで、資料の場面を想像しやすくなり、活発な議論に役立っていたと思う。導入や説明する際に、映像や写真等を用いることは効果的であると改めて感じた。(東部)
- ワークシートの中に自己評価の欄があり、自分自身で毎回の道徳の授業を振り返ることができ、また、積み重ねから比較することもできるので、とてもよいと思った。(東部)
- 教員全員がこれからの道徳授業において教科化されることを意識して授業に取り組む姿勢が必要だと感じた。そのため、様々な道徳についての研修会で聞いてきたことを学校内で全教員がしっかりと共通理解を図ることが大切であると思う。(東部)**
- 研究発表資料に載せられていた「道徳科 授業準備の手順」がとても参考になった。学校での取組や授業者の教材観、道徳的価値の捉え方が分かりやすく、指導案や授業を参観する際の参考になった。自分でも利用したいと思った。今後も継続してほしい。(東部)
- 研究授業では、教室の掲示物等からこれまでの道徳の授業の流れを見ることができ、大変参考になった。また、授業では、生徒が個で考えている間にまとめて出てきた意見を板書している方法を見て、生徒の考えが途切れないように板書するタイミングを考えていく必要があると感じた。(東部)
- 授業会場と協議会場が同じなので、板書を見ながら協議することができ、授業の流れを振り返るのにもよかった。また、授業記録も各会員に配付されたこともよかった。(東部)
- 従来の道徳の授業とは異なる固定観念に縛られない仕組みを想像することができた。今後の未来社会を担っていく子供たちのために道徳教育をどう仕掛けていくべきか考えるよい機会になった。(東部)

- 指導主事の先生の講評を聞いて、一つ一つ原点に立ち返らされるようで参観した教師に対してのある意味「問い返し」になっていたと思う。(東部)
- アドバイザーの白木みどり先生の講義は、分かりやすく大いに参考になり、実践意欲が湧いてきた。「特別の教科」化に向けての今後の取組や研究授業に対する具体的な指導もあり、有意義なものとなった。(東部)

## II

- チャイムと同時に授業を終わる時間配分が必要である。必要な導入と補助発問を吟味してそぎ落とし、中心発問と振り返りの時間を確保する必要がある。(西部)
- 中心発問における交流では、ただ読み上げるだけで、深まりが見られないグループがあった。自分の意見に自信がもてない生徒への抵抗を取り除きたいと考え、交流を取り入れており、教科学習における話し合いとはねらいを異にしている。しかし、何のために話し合うのかという意図を明確にしなくては、道徳的価値に迫ることはできない。(西部)
- 少人数で話し合う活動では、何を目的に、何を誰と話し合うのか、単なる意見交換なのか、議論するのか、合意を図るのか、目的と方法を明確にして活動させる必要がある。(西部)**
- △グループで話し合ったことや個人の感想等、学級全体での生徒の意見や考えを共有する方法について、さらに研究を進めていくべきである。(西部)
- △生徒一人一人が考えたことをどのように広げ、深めていくか。議論する道徳について考えていく必要がある。(西部)
- 「教材の読みの深さ」の必要性を痛感した。発問や板書、多様な教材の活用等を意識しすぎているように感じる。もっとも大切な「教材の読み」を深める研修が必要である。(西部)
- △マトリックスシート1枚を用いた協議会ではシェアしづらく、発言もしづらい。グループ協議でもよかったのではないかと。(西部)
- 協議会でのマトリックスシートの活用では、多くの意見が出る一方で、出てきた様々な意見を協議会でどう取り上げたり掘り下げたりしていくのかという点で、工夫・改善が必要である。(西部)
- 協議会は、グループでの話し合いから発表までいけるとよい。また、協議会のグループ編成は、年次バランスを考えて構成してもらえると若手教員にとっては勉強になり、ありがたい。(西部)
- アドバイザーの横山利弘先生の講義では、せっかく用意していただいた資料について、もう少し解説を聞きたかった。時間が足りないように感じた。時間設定を工夫してほしい。(西部)
- 1年生の授業では、生徒と教師間でのやり取りが主だったように感じた。生徒の意見に別の生徒がどう思ったのかなど生徒同士のやり取りによる授業展開を今回のクラスだからこそ見てみたかった。(東部)
- 生徒同士の対話を促すための教師の働きかけの仕方や生徒の考えを深く掘り下げて発表させることのできる問い返し発問の工夫が必要である。(東部)
- 教師と生徒の1対1の対話になりがちである。生徒同士の意見に繋げる授業にするにはどうすべきか、議論するためにはどうすればよいかを工夫する必要がある。(東部)
- 生徒に自分の言葉で最後まで語り切らせるように、教師が待つことも必要だと学んだ。(東部)**
- △深めたい道徳的価値を教師がしっかりと考えておくこと、理解しておくことが、深まりのある授業を行うのに大切だと思った。(東部)
- 生徒の発言を予想した構造的な板書及び、板書での生徒発言の位置付け方の工夫が必要である。(東部)
- 「授業の山をどのように設定するか」「グループワークやペアでの意見交換等の適切な活用」「ワークシートの活用方法」「終末のまとめ方の工夫」「発問の十分な吟味」について考える必要がある。(東部)
- △「考え、議論する」というキャッチコピーに惑わされず、「自分事として、対話を通して考えを深める」道徳を目指していきたい。(東部)
- △「特別の教科」化に向けて、研究授業では「議論する」ための展開の工夫を提案し、その成果を協議していきたい。(東部)
- △評価とも関連して、協議会では個々の生徒の変容を参観した教員で情報交換する場を意図的に設定することが、これから自分の学級の生徒を評価していくための視点につながるのではないかと。(東部)
- △部会協議では、付箋を使ってよかったところや改善点等を出し合うなど、積極的に協議し合える場であればよいと思った。ただ挙手による発言をするのではなく、周りの数人やグループでの話し合いを取り入れると協議が深まったのではないかと。(東部)

## III

- 地区研究会が夏季休業中に実施されたのは、時期として適切であった。(西部)
- 細案等を準備していただいたおかげで、大会当日までの見通しをもって準備を進めることができた。(西部)
- 9月に中滑合同で指導案検討を行ったことで、資料の読みが深められ、授業者のねらいに注目して授業を見ることができた。(東部)**
- 遠方から来てくださった運営委員の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいである。(西部)
- △9月下旬の製本の出張は必要か。負担減を考えて、学校へのメール送信でよいのではないかと。(東部)
- △授業の資料を指導案に付けることはできないか。資料があると便利である。(東部)

#### IV

- 高岡市はすべての学校が、15日(日)に学校祭があったため、きつかった。(西部)
- △道德部会に限ったことではないが、氷見市では終末に学校祭が行われる学校が多く、準備が滞ってしまう。特に小規模校では、残留教職員での対応にも限界がある。道德・特別活動・特別支援部会は11月に、というような変更を検討していただきたい。(西部)
- 滑川市中教研の部員(4名)だけで手が足りない分を、運営委員や富山市の部員の協力のお陰で無事終了することができ、大変助かった。(東部)
- 東西同時開催では、他地区の様子が分かりにくく、他地区のアドバイザーの講義も聴くことができないので、東西の開催日をずらすことができるとよいと思う。(東部)
- △**次年度もアドバイザーが東西共に配置されるのか早く知りたい。アドバイザーが配置されない場合、部会協議②で研究発表をすることになると思うので、発表地区(者)の設定を早く行っておきたいと思う。**
- 協議1では全員で黒板のマトリックスに付箋を貼って協議したが、参加者から付箋は見えずらく、また論点も絞りきれず、協議を深めることができなかった。協議時間は30分しかなく、発言しないまま終わってしまう方が多数いた。改善策として、「4人組の小グループで論点を絞って協議を進める。その小グループで協議を行う」「司会者の方で予め論点を絞って協議を進める。指導案にある「(3)本時の視点」を切り口に協議を進める」という方法が考えられる。
- アドバイザーの講義までの時間を考えると、研究協議を5~10分程短くすればよかった。
- △部員数を考慮すると、提案授業は今後も3授業が必要である。(東部)
- 学年別の協議の形態を考え直す必要があると感じた。全体での協議だと、道德に造詣の深い先生方の意見を全員が聞くことができる一方で、まだまだ道德に自信がなく、質問したい、相談したいと思っている先生方が発言しにくい雰囲気になった。(東部)
- △授業後の部会研修は、全体という形だったので、もう少し、少人数で話し合える形であればよかったと思う。
- △構造的な板書の作り方等を実践、協議し、自校に持ち帰って授業の技として普及できるような内容があればありがたいと感じた。
- 事後協議会の持ち方の検討が必要ではないか。意見の相違があっても当然であり、疑問が生じた場合は協議・追究すればよいと思うが、質問者と授業者の間のQ&Aで終わってしまった。なにかもったいない気がした。
- とても分かりやすく、実践的でためになった。もっと横山利弘先生の話聞いて、勉強したくなった。来年度も是非、横山利弘先生にアドバイザーとして来ていただきたい。(西部)**
- △**アドバイザーの横山利弘先生の講義が大変参考になった。教科化に向けて準備していかねばと感じた。もう少し講演の時間が確保できればよかった。(西部)**
- 道德授業の在り方について悩んでいる参加者にとって、悩みを解消することができる内容であった。各校で広めることができるよう、今後も呼びかける必要がある。(西部)
- 部会研修②では、白木みどり先生から今後の道德に向けて貴重な講演をいただきありがたかった。(東部)**
- 白木みどり先生の講演では、道德指導要領改訂の背景を聴かせていただき、道德に求められている役割をよく理解できた。白木先生ならではの切り口で分かりやすいお話を聴き、新しい道德のあり方を学ぶことができて大変効果的であったと思う。(東部)
- △道德のみではなく、教育全般について変換期だということの続きを聞きたい。(東部)
- △アドバイザーの話最後まで聞けるようにしてほしいと思う。事前の打合せで、内容を絞っていただくようにするとよいのではないかと。(東部)

#### V

- △**来年度も、西部・東部地区ともにアドバイザーを配置してほしい。(西部)**
- △小矢部市は会員数が少ない郡市にもかかわらず、会場校になることが多い。負担が大きいので、見直しを考えていただきたい。(西部)
- △道德部会の部員の入れ替わりが激しく、単年の研修になりがちである。研究主題が3年のものになっているのであるから、部員も含めて、継続した研究を期待したい。せめて、部長、研究主任クラスは、継続して研究を進めて、県の道德の時間のレベルアップを推進できないものだろうか。(西部)
- △**教科化に向け、評価の方法について、研修の機会をもちたい。(西部)**
- △今後も、新学習指導要領に関する研修を重ねていく必要があると思われるので、その改訂に関わられた先生の講演が有意義であると思う。また今回の道德部会のように、講演の際には、実際に行われた研究授業の場面を取り上げて、具体的な指導を受けられると、より理解も深まるのではないかと。(東部)
- △今回の資料に綴った教材分析表については、協議会での話題にはならなかったが、これまでの県中教研の道德部会の研究・指導として教材分析の重要性が明らかになっているので、大会資料に教材分析表等を掲載することを今後も継続してほしい。(東部)
- △年度当初の県中教研で「今後は教科と、道德・特活・特支のいずれかの2部会への所属を全教員にお願いする可能性がある」と言われた。その場合、研究大会の会場規模や部会協議の持ち方等の検討が必要だと思った。(東部)

## <特別活動部会>

### I

- 学習規律が指導されており、話し合いのシステム（ルールや雰囲気等）も確立されていて、話し合いがスムーズに進められていた。（東部）
- 司会の生徒が素晴らしく、対立する両方の意見を聞いて、対話を大切にしていた。日頃から話し合いの場を大切にしている学級の雰囲気が伝わった。（東部）
- 生徒が主体となって学級会が進められており、教師のフォローが適切に加えられていた。また、事前に3つの方法が整理されており、生徒は議論しやすかった。学級代表や班長を中心として、話し合いに積極的に取り組もうとする姿勢が素晴らしかった。（東部）
- 話し合いに、座標軸やホワイトボードなどの思考ツールを活用することで、話しやすい雰囲気が生まれていた。（東部）
- 座席はスタンダードだったが、全体で意見を聞いたり、班で議論したりするには、時間的な面でもよかった。（東部）
- ダイヤモンドランキングなどの思考ツールを使うことで、生徒が考えやすくなっていた。ホワイトボード上でダイヤモンドランキングを決めていくことは有効であった。（東部）
- ダイヤモンドランキングは自分の意思を決め、級友に伝えるうえで効果的だった。また、黒板上でダイヤモンドランキングを作ることで、話し合いに目的が生まれていた。（東部）
- 生徒は、ダイヤモンドランキングを作る作業を、個人、班、全体で三度も行っていることになる。しかし、受験が差し迫った生徒には切実感のある課題であるため、生徒は興味を失わずに取り組んでいたように見えた。（東部）
- 座標軸を用いたことは、各班の考えを可視化し、その後の議論を進めていく上で有効であった。（東部）
- いろいろなトライをして、生徒も教師も成長させてもらえた。（東部）
- 部会協議は十分な時間が設定されており、小グループで研究授業だけでなく、普段の取組についても意見交換できた。（東部）**
- 2学年の部会協議では、授業の改善点や効果的であった点について付箋でまとめたり、協議したことを班別で発表したりすることで、より良い授業づくりについて考えることができたと思う。また、全体で様々なアイデアを共有することができ、有意義な時間であった。（東部）
- 3学年の部会協議では、小グループで改善点や授業の良かった点を発表するという手法が特別活動に必要なことを全体で深めるために有効であった。（東部）
- 1年の授業について健康安全に関わる内容においては、養護教諭、専門機関との連携が有効であり、今後一層必要になってくると考えられる。本時の授業では、学級担任と養護教諭とのチームティーチングがうまく機能しており、両者の連携が取れた授業となっていた。（西部）
- 3年の授業に関して、近年、社会的にも話題になることが多いSNSは、生徒にとっても関心が高い問題である。また、生徒会活動と関連付けての学級活動で、課題設定がよかったと思う。（西部）
- アンケート等の結果から、生徒にとって必要感、切実感のある学習課題が設定されていた。生徒の実態に即した課題設定だった。（西部）**
- SNSに関して、民間会社が作成した教材をうまく活用されていた。（西部）
- 事前アンケートの結果を他のクラスと比較して提示したり、グラフの数値が何をしているのかを生徒と共に考えたりしながら授業を展開していくことで、生徒の話し合いに対する意欲を高めることができていた。（西部）
- 同じ悩みをもった生徒同士でグループを設定したことで、グループでの話し合い活動が活発に行われた。（西部）
- 指導案に配時だけでなく実際の時刻が記入されたことは授業者、参観者の双方にとって見やすいものとなっていた。また、T1、T2の手立が別々に示されており、授業内でうまく連携がとれていた。また、導入の場面におけるT1とT2のかけ合いを利用した課題提示は、課題に対する生徒の必要感を高めるために大変効果的であった。（西部）
- 二つの学年での研究授業を行った。このため、各授業を見る特活部員がいずれも20名強に収まった。部会協議①は、時間は短かったが、2部会に分かれたため、少人数で充実した協議を行うことができた。（西部）**
- アドバイザー講義では、これからの教育課程や特別活動において育成すべき資質・能力について等、新しい特別活動に対する考え方や取組方について、ご指導いただいた。研究授業を振り返りながらのご指導で、分かりやすかった。（西部）
- アドバイザー協議は、会場が適正規模であったため、アドバイザーの先生の声やスクリーンの見え方等、明瞭でよかった。（西部）

### II

- △小学校までの話し合い活動の経験をいかに中学校で生かし、充実した話し合い活動にしていくか、今後の研究が必要である。（東部）
- △話し合い活動にダイヤモンドランキングは有効であるが、合意形成の際に視点を明確にする必要がある。学級全体での話し合いではどのように合意形成をするか。また、話し合いや合意形成が不十分な場合は、どのようなまとめや振り返りを行えばよいのか考えていきたい。（東部）
- △なぜその方法がよいのか、またはよくないのかの理由を話し合わせる場でなければならない。そのため

には、9項目あった方法を減らし、理由をじっくり考える時間を確保すること、それを書き込めるワークシートを工夫すること、理由について話し合い、多角的に物事を見つめる姿勢の工夫が必要になると思う。(東部)

●ホワイトボードの使用は、意見をまとめねばならないという気にさせる効果はあるものの、意見が収束し、少数派の意見が消えてしまう危険性があるのではないかと。(東部)

●話し合いの中心を何にするかを議長が判断できるように指導することが大切。(東部)

●話し合いでなく、意見発表のような形になっている班もあった。(東部)

△実態からどこに視点を当てて明確な課題を浮き彫りにできるか、また、学びを具体的な行動目標につなげ、さらに実践につなげていくための指導はどうあればよいかを考えていきたい。(西部)

△生徒が自身の課題として捉え、活発に話し合える授業に高めていく指導に高めていきたい。(西部)

△評価をいつどのように行い、次の課題解決にどう生かしていくか、今後も研修していかなければならない。(西部)

●**指導案の作成については、夏休みの早い段階に校内検討会を行えるよう、計画を早めに立てて授業者と打ち合わせておけばよかった。(西部)**

●グループ活動や話し合いの在り方、目的、方法等の工夫、改善が必要である。授業のどの場面でどのような方法で、教師の適切な指導を行うかという点についても同様である。(西部)

●3年生の授業に関して、生徒の発言に対して切り返したり、掘り下げたりするような教師の発言がなく、生徒の発言を紹介しただけで次の学習活動に移っていた。話し合ったことについて、教師がどのような働きかけをするかを考える必要があった。また、終末のまとめでは、発言したい生徒に発言させるのではなく、意図的指名を行えばよかった。(西部)

●グループと全体の話し合いで多くの意見が出たのはよかったが、そこから個人の取組を考える際に考えられない生徒が見られた。時間配分や教師側からの声かけに工夫が必要である。(西部)

### III

●今回は呉羽中学校が受けて下さったおかげで決まったが、実際呉羽中は、教科の発表も受けており、大変負担をかけたと思う。県全体で、発表校のバランスをとることはできないか。(東部)

△富山市開催でありながら、新川地区の研究推進委員の方々から資料配送等手伝って頂くのが申し訳なかった。資料発送等は、県の文書交換等で行ってはどうか。(東部)

△8月の事前研修前に指導案(途中段階でもよい)の情報をメール等で郡市部長に伝えてあるとよい。(西部)

△8/23の「全体打ち合わせ会」をもっと早くに行えれば、見通しがもてる。資料だけでも夏休み前に送付してほしい。また、この打ち合わせ会の出席者に、会場校の実務にあたる担当者が入っていると、下旬の地区研究会への接続がスムーズにできるので、そのようにお願いしたい。(西部)

●指導案検討会の流れが明確になるとよい。いろいろな事情もあったと思うが、指導案の内容と変更されて授業が行われることがあったので授業前に確認する機会があればよかった。(西部)

### IV

△当日の正しい司会原稿があるとよい。(西部)

●アドバイザーの講義の関係で致し方ないが、13:30からの授業では余裕がなかった。運営委員の集合時間を12:45に集合にしたが、郡市の範囲が西部地区で広いので、昼食を十分に取る時間もない運営委員もおられたのではないかと。(西部)

△班別の協議の司会は事前に決めて司会者に伝えておくとよい。(西部)

●部会協議が有意義な研修になるような展開の工夫が必要だと感じた。研究授業の内容分析に終始しないようにすべき。(西部)

△アドバイザー講義は時間がなくなり、最後まで聞けなかったのが残念。スライドだけ見せていただいた後半部分(「合意形成に至る手順」等)こそ、ぜひ講義で教えていただきたかった部分だった。どのような内容の講義をお願いするか、特活部会から要望を出すことができないか。知りたいことについて、講義していただけると効果的だと思う。(西部)

△アドバイザー講義の情報量が多く、なかなか部員に伝わらないように思う。事前に部長が連絡をとり、講義内容を厳選いただくようお願いしたい。(西部)

### V

△小教研と中教研の連携がスムーズに行えるシステムが構築されればありがたい。(東部)

△授業で使用されたワークシートや指導案を共有できるとありがたい。(西部)

△アドバイザー講義については、学習指導要領の解説よりも、明日から実践できるような例(情報)を教えてください。(西部)

●「会報171号」の原稿締切をもう少し遅くできないか。また、部会責任者がアドバイザーの講義の原稿も書くのは負担が大きい。(西部)

## <特別支援教育部会>

### I

- 特別支援学級の生徒であっても話し合うことで、深め合い、気づき、学び合える事が分かる授業の提案であった。また、ICT機器を活用した授業の提案で、自分の姿を客観的に振り返ることで、生徒の変容が見られた。(東部)
- 指導のポイントを図示したり、黒板に分かりやすく整理されたりしていた。生徒は授業の流れを理解しやすかった。(東部)
- 授業の様子を3方向のカメラから撮影されており、生徒の様子・表情がよく捉えられていた。事前にビデオで撮影された授業をもとにした研修なので、視聴前のオリエンテーションで授業を見る視点をあらかじめ示すことができた。そのため研修の視点を絞ることができ、参加者がそのことについて付箋で意見を書き、研修もより深まったように思う。(東部)**
- 研究発表におけるケース会議の開き方の提案では、まちなか総合ケアセンターこども発達支援室の存在や、SSW(スクールソーシャルワーカー)の活用について知るなど、新しい知識を得ることができた。ケース会議の有効性がよく分かった。(東部)
- これまで不登校に関する情報交換の場が少なかったので、貴重な機会であった。(東部)
- 自・情級における複式での教科の一斉授業において、学年が異なっても、生徒同士の関わりがもてる内容であった。また、同じ学年でも理解力が異なるので、個に応じた支援がなされていた。先生の付かず離れずの生徒への声かけや関わりがよかった。(西部)
- 自・情級での、個別の学習課題の提示の仕方、学習への取り組ませ方、授業での生徒同士の関わらせ方等、参考となる点が多かった。(西部)
- 多学年にわたる自・情級の教科の授業において、各々のプライドをうまく刺激しながら、そのやる気を出させ、一人一人に成就感や達成感を味わわせる声かけや支援の工夫があり、効果的であった。関わり合わせて、学び合わせる授業であった。(西部)**
- 授業会場の隣の部屋で授業の様子を見ることができたことはよかったと思う。(西部)
- アドバイザーの方の講義がとてもよかった。分かりやすかった。合理的配慮について詳しく説明してもらえてよかった。(西部)
- インクルD Bの紹介等、最新の情報提供があり、有効な手立てを知ることができてよかった。(西部)

### II

- 学習課題は生徒のモチベーションが上がるものであればよい。お互いが競い合うのではなく、生徒同士が協力して成し遂げる課題の工夫があればよい。(東部)
- 映像は生徒の様子が分かりやすかったが、音声不明瞭であった。板書や黒板の掲示物が見えにくかったので、配布されたプリントや、授業当日掲示したものを紹介されるとよかった。(東部)
- 付箋を貼る用紙は、縦型よりも横型であった方が貼りやすかった。(東部)
- △**今回の授業にかかわらず、特別支援担当の教員として力量を上げることが今後も必要である。(東部)**
- △成就感や達成感を味わわせられたかどうかの教師側の評価方法を具体的に考える必要がある。(東部)
- 映像が少し見にくく、生徒の手元が分からないこともあり、ワークシートに書き込む様子や板書がよく見えなかった。(西部)
- 生徒がワークシートに書いている内容や様子についてよく分からなかったので、録画にしてほしかった。声も小さくて、よく聞き取れなかった。(西部)
- △テレビ中継は、生徒と先生のやりとりの様子が見えやすい位置、角度で撮影する必要がある。(西部)
- △学年を超えて一斉授業をする際における、時間配分の制約を解消するための手立てやICTの活用について知りたい。(西部)

### III

- 地区研究会において、研究授業についての研修時間はとれたが、発表については十分に時間をとれなかった。(東部)
- 事前に撮影したことが今回の研修ではよく生かされていたが、大会当日までに何度も集まる必要があるであった。担当者の負担感はあったように思う。(東部)
- △特別支援学校の先生方からのアドバイスを取り入れ、指導案作成に生かせばよいと思う。
- △参加者名簿に名前の抜けている先生がいた。名簿ができあがったときに、各郡市部長でそれぞれ確認する必要がある。

#### IV

- 駐車場係は、開催校の担当者と事前に打ち合わせをしておくとうよかった。（東部）
  - 研究協議にもう少し時間が欲しかった。（東部）
  - 毎年、学校祭と日が近いので、日程的にととても厳しい。日程を少し考えてもらいたい。（西部）
- △合理的配慮についての講演があったが、本題までが長かった。学校における対応の具体例について、時間をかけて多く語っていただきたかった。時間配分を再考してほしい。歴史や法的根拠よりも、明日からの学校での指導支援に役立つ講義をお願いしたい。（西部）
- △アドバイザーの方にも、生徒への対応のあり方等を具体的に話してほしい。（西部）

#### V

- △「授業」中心ではなく、支援方法や支援技術の発表体験をすれば、先生方の授業技術の向上につながるのではないかと思う。（東部）
- △生徒を残して研修に出てくることは学校に迷惑がかかるため、開始時間を遅らせて欲しい。または、教科と同じ日にして、支援級担任が研修会に出やすくして欲しい。（東部）
- △授業を録画にするか、中継にするか、検討が必要である。（西部）

### <保健部会>

#### I

- 学校全体で健康教育に取り組むには、年度当初から学校のカリキュラムに位置付け、校内の組織（チーム）で取り組むことが効果的だった。
- アクションプランと連携させたことで、1年間の見通しがもて継続して実践することが出来た。
- 学校保健委員会を分科会形式にして、実態を把握し自己選択・自己決定する場を設けたことが、生徒の健康な生活を送ろうとする行動変容につながった。
- 部活動ごとに熱中症対策危機管理ミーティングを実施したことで、生徒自身が予防対策や練習計画を立て実践していく力につながり、危機意識を高めるのに効果的だった。
- 指導主事の先生から、1年間を見通し1学期に実態把握（R）、夏休みに計画（P）、2学期に実践（D）、冬休みに評価（C）、年度末に見直し（A）を行うカリキュラムマネジメントについて学ぶことができた。今後、実践していきたい。**
- アドバイザー講師の富永先生の講義は、対話形式やグループ討議、アサーショントレーニングと多岐にわたる講義内容で充実していた。具体的な事例や体験を交えたお話しで大変参考になった。

#### II

- 事前にワークシートが配布されたが、回収することを知らせてほしかった。
  - グループ討議の時間が短かったので、まとめる時間がなかった。ただ、3人グループは、意見を出しやすい人数だと感じた。
- △指導主事の先生の講話は、毎年すばらしいので資料を印刷してもらいたい。
- △アドバイザー講義が実施される年は協議の時間が短いので、進め方を工夫する必要がある。
- ワークシートの内容や書き方について、今後検討する必要がある。

#### III

- 速星公民館の会場は広く明るくよかったが、スクリーンが小さく見えにくかった。
- 他団体の音や出入りの音が気になった。また、トイレが少なかったので、休憩時間を長く設定する必要があると思う。

#### IV

△アドバイザー講義がととてもよかったので、もっと時間を長くしてほしい。

#### V

△来年度は、アドバイザー講義がないので、保健体育科の指導要領改正に伴う保健学習の内容や道徳の教科化等についての話を聞きたい。保健部会は教育課程研がないので、この機会に学ぶことが出来たらありがたい。